

こども宅食の対象世帯の
生活実態と支援ニーズに関するアンケート
【 調査結果報告書 】

2019年6月 文京区こども宅食コンソーシアム

1. 背景と目的

1-1 背景

1-2 調査の目的

1-3 調査の概要

2. 調査結果サマリー

3. 調査結果詳細

3-1 こども宅食対象世帯の生活実態

3-2 支援サービスの認知／利用状況とニーズ

3-3 「生活状況が厳しくなるリスクが高い世帯」の定義設定

3-4 課題重複世帯の特徴

1. 背景と目的

1-1 背景

2017年から東京都文京区で実施している「こども宅食」では、経済的に困難な家庭に食料など生活必需品を届けることによって、食費の負担を軽減する／食事の質を改善するだけでなく、対象世帯とつながり、コミュニケーションがとれる関係性を構築することで、対象世帯の生活課題及び支援に関するニーズを発見し、適切な社会資源を繋ぐことでリスクが高い状態になるのを予防することを目指している。

なお、文京区では、子育て世帯に対する「文京区子育て支援に関するニーズ調査」を実施しているが、こども宅食の対象となる経済的困窮家庭（児童扶養手当または就学援助世帯）に対する調査は実施されておらず、その実態が把握できていなかった。そのため、運営主体である「こども宅食コンソーシアム」では、申込み世帯に対して利用開始前にアンケートを実施し、生活実態や支援に関するニーズの把握を行っている（第1回は2017年10月、第2回は2018年2月、第3回は2018年9月に実施。今回のレポートは第3回アンケート結果についての分析結果をまとめたもの）。本調査結果を文京区に提出し、今後の子どもの貧困対策の検討資料として活用されることを目指している。

調査結果から、対象家庭の生活困難度にはばらつきがあることがわかってきた。そこで、生活困難度（状況）に応じた必要な支援の方法・内容について検討するために、利用家庭全体の把握に加えて、生活状況が厳しくなるリスクが高い世帯についての分析も進めることとなった。

こども宅食コンソーシアムでは、以下の3点を目的とした調査及び分析を実施した。

こども宅食の対象世帯の生活実態を把握する(どのような状況なのか)

既存の支援サービスの利用実態や支援ニーズを把握する
(どのようなサービスが必要なのか)

対象世帯のうち、生活状況が厳しくなるリスクが高い世帯について分析する
(どのような困りごとがあるのか)

※2019年8月28日「生活困難度が悪化するリスク」を「生活状況が厳しくなるリスク」に変更

以下の内容で調査を実施した。

調査時期 / 手法

2018年10月度の食品配送(第2期の初回配送※)前に、
自記入式の紙の第3回アンケートを郵送し、回答、返送を依頼

※ 詳細は次ページ参照

調査対象

第2期のこども宅食の利用申込世帯 555世帯

回収数

2018年11月2日時点で回答のあった世帯 361世帯

※ 2019年6月公表の「インパクトレポート」とは集計・分析世帯数が異なるため、記載の数値が異なる場合があります。

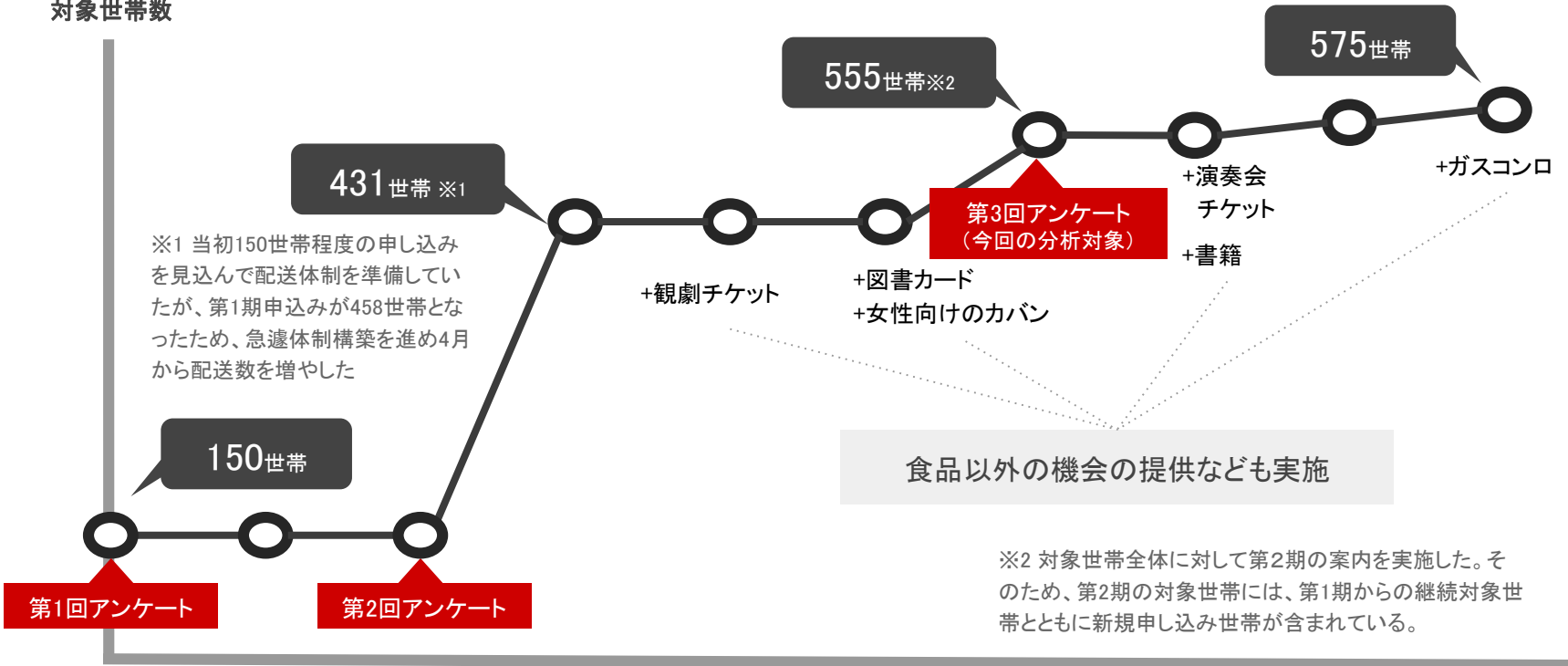
回収率

65%

【参考】こども宅食の活動実績



対象世帯数



2. 調査結果サマリー

こども宅食対象世帯 の生活実態

経済的にかなり苦しい状況で暮らしている世帯が含まれている。

借金しながら家計をやりくりしている世帯が約1割、公共料金の支払いができないことがあった世帯が、電話・電気・ガス・水道それぞれ1割程度存在する。現状の生活満足度については、半数以上が100点満点中70点以上をつけている一方、30点以下の点数の低い世帯が約1割存在している。

文京区の平均的な子育て環境との格差は大きい。

子どもに対しての体験機会を提供できていない割合は、区の調査結果(子育て世帯全般)では数%であるのに対し、こども宅食利用世帯は10%を超えているものが多く、その差は大きい。

支援サービスの 認知 / 利用状況と ニーズ

すでに提供されている支援サービスでも認知・利用状況が不十分なものがある。

食品、生活用品に関するニーズは高い。

修学資金の貸付・奨学金、学習支援、生活資金の貸付、住宅を探す援助については、利用している人が少なく認知度も低い。食品や生活必需品の支援に対するニーズは減額や手当などの経済的支援に次ぐ高さとなっており、個別相談や専門的な支援よりも多い。

「生活状況が厳しくなる リスクが高い 世帯」の定義設定

課題が3つ以上ある世帯を「生活状況が厳しくなるリスクが高い」として設定。

独自に設定した6つの課題について分析した結果、以下の傾向がみられたことから、課題が3つ以上ある世帯を悪化のリスクが高いと設定した。

- ・「該当する課題の数が多いほど生活満足度が下がる傾向がある」
- ・課題が3つ以上ある世帯は、「課題0個の世帯と比べ生活状況が厳しく、支援に関するニーズも高い」「周囲からわからないように支援を受けたい気持ちが特に高い」

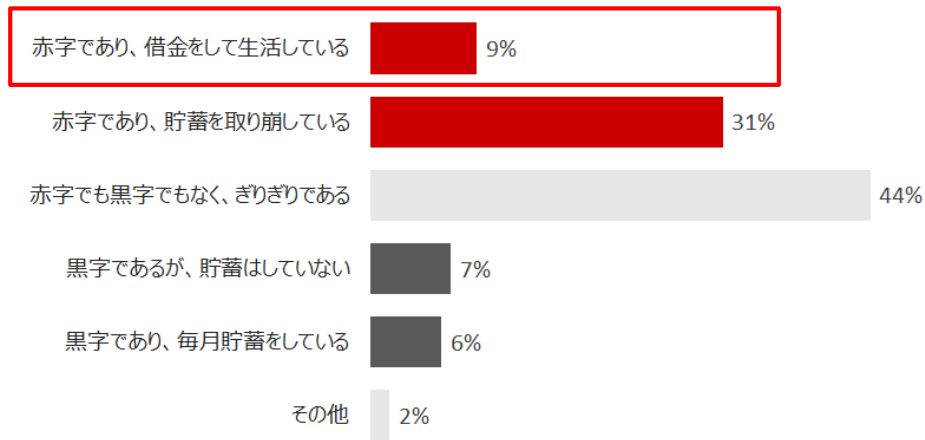
課題重複世帯の特徴

課題が3つ以上ある世帯は「周囲に知られないように支援を受けたい」気持ちが強く、「相談できる相手とのつながり」や「専門的な支援」を求めている。

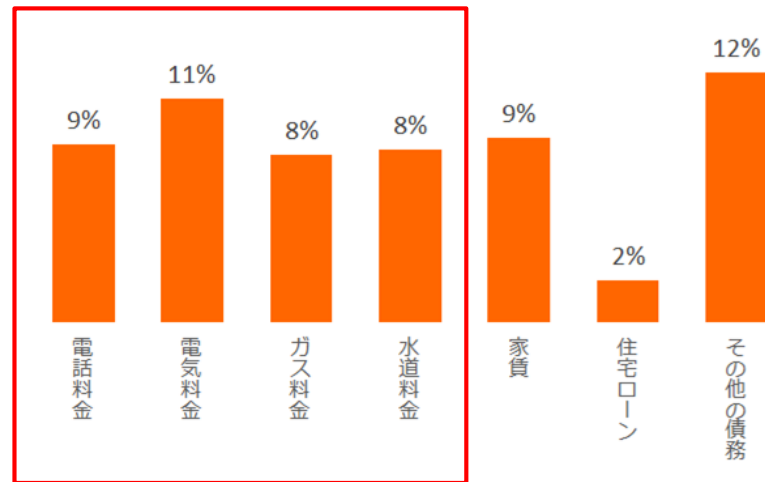
課題0個世帯と比較すると、明らかに求めている支援の内容や支援方法が異なることが示唆された。

約1割の世帯が借金をして家計をやりくりしている。また、過去1年間に公共料金(電話、電気、ガス、水道料金)の支払いができないことがあった世帯もそれぞれ1割程度存在している。

Q:ご家庭の家計について、もっとも近いものをお答えください。(単回答)

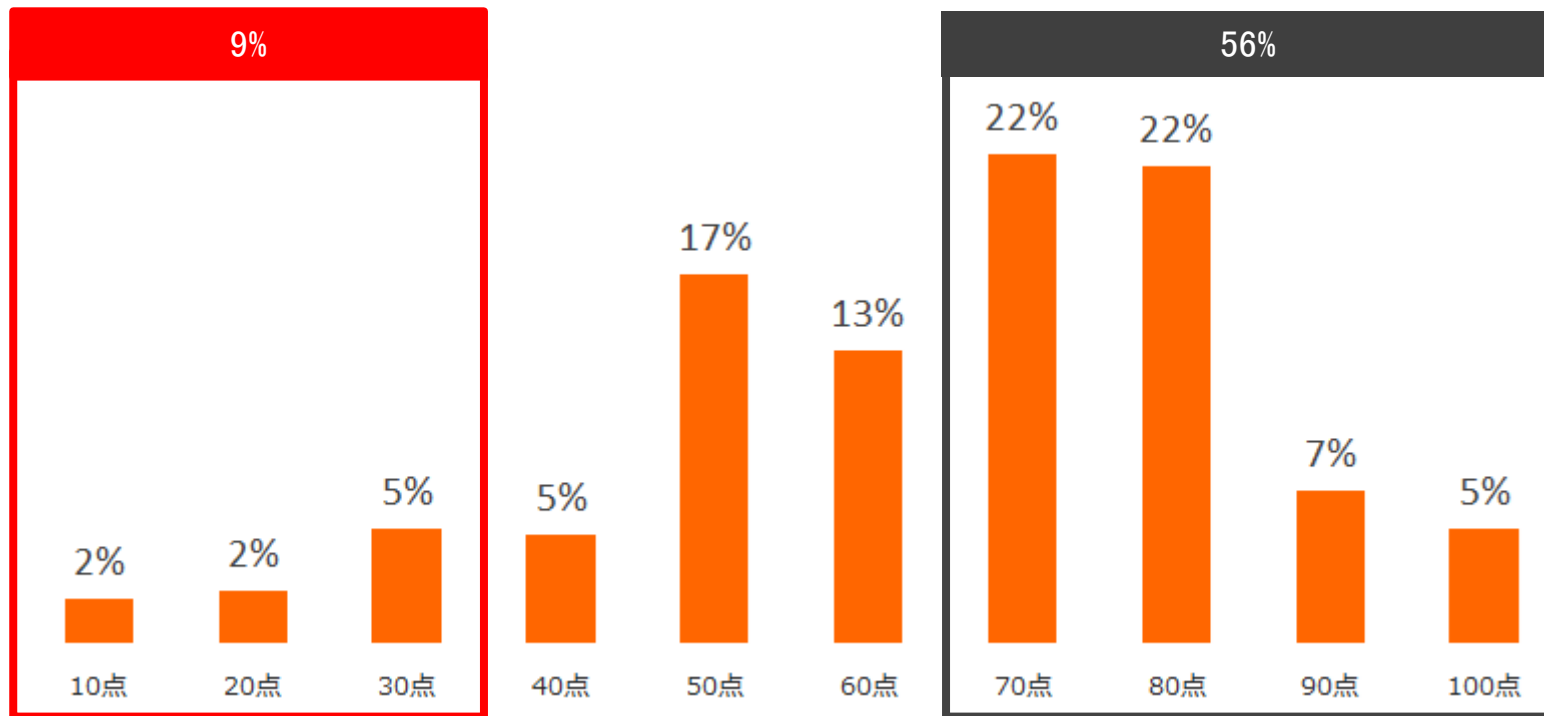


Q:過去1年の間に、経済的な理由で、以下のサービス・料金について、支払えないことがありましたか。(それぞれ単回答)



現状の生活満足度について、半数以上が100点満点中70点以上をつけている一方、30点以下の点数の低い世帯が約1割存在している。

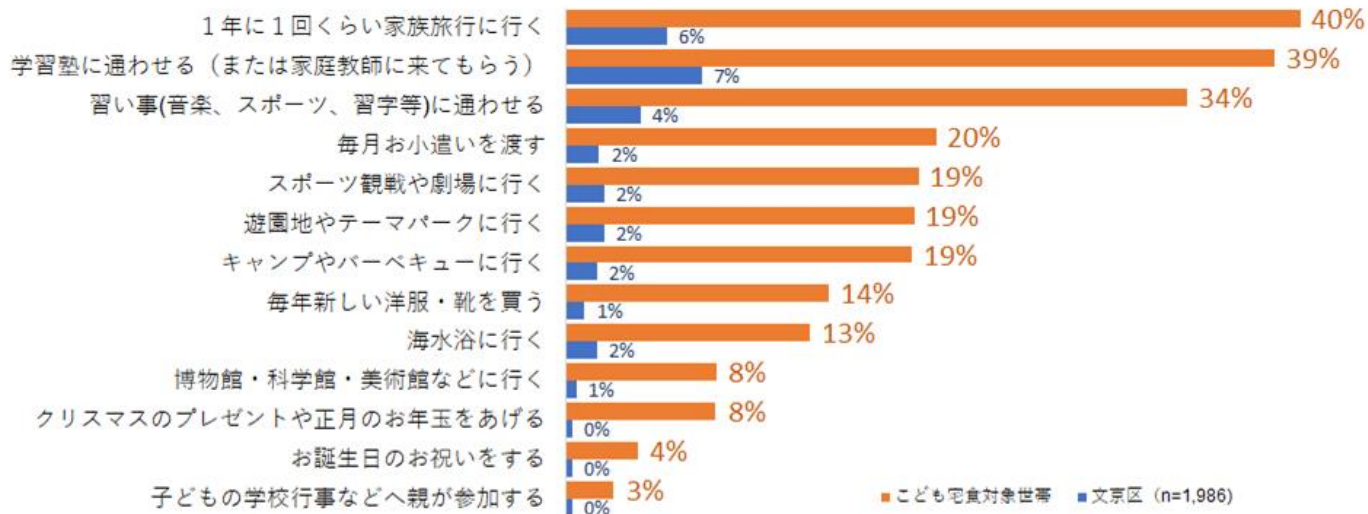
Q: あなたの現在の生活に対する満足度について点数をつけると、100点満点で何点になりますか。



剥奪指標(※)については、区全域に居住する子どもを養育する世帯では数%であるのに対し、こども宅食利用世帯では10%を超えるものが多く、その差は大きい。

剥奪指標の各項目について「経済的な理由でできない、やらない」を選択した人の割合

※ 剥奪指標についてはP.22の記載を参照のこと

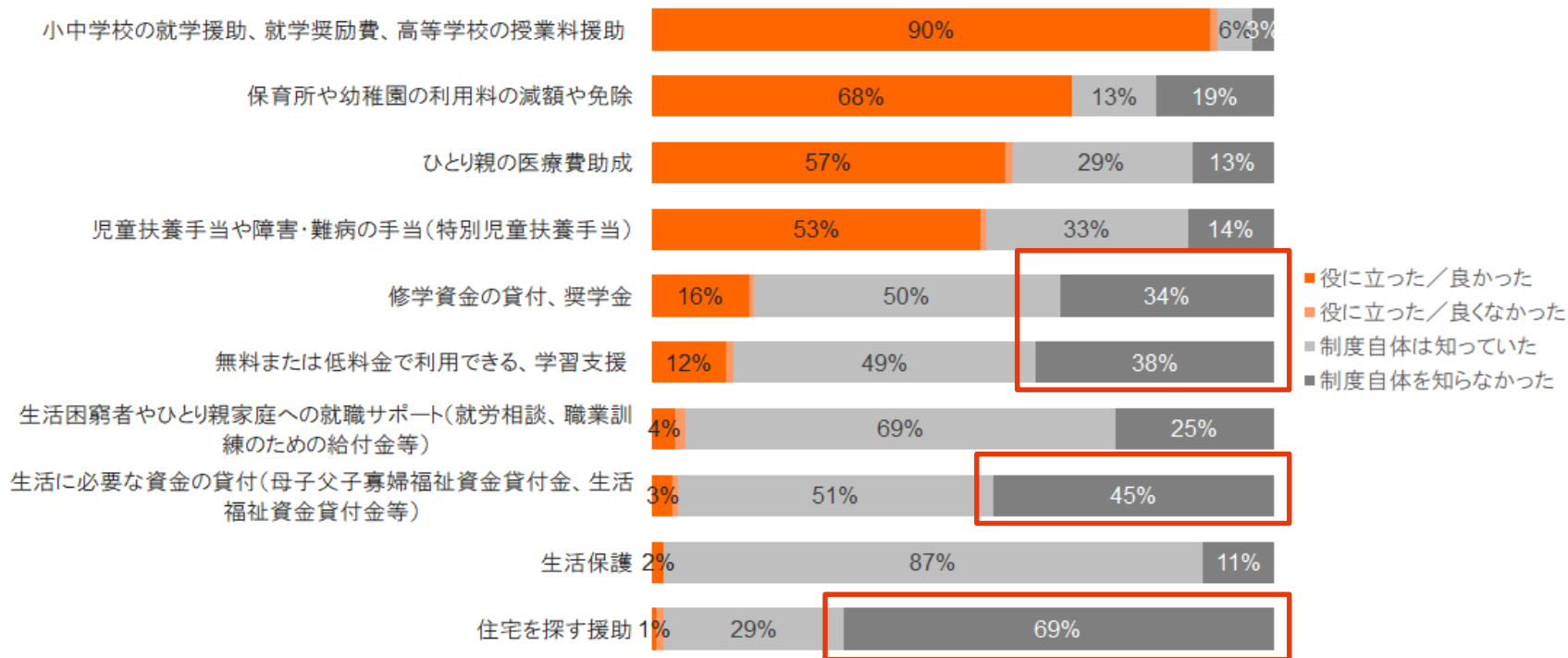


・ こども宅食対象世帯の算出方法：全体世帯数（n=361）から「適年齢でない」を除いて再集計したもの

・ 文京区の数値の算出方法：「平成30年度文京区子育て支援に関するニーズ調査」にて回答した、就学前、小学生、中学生の数値の合計を回答者数で割ったもの。

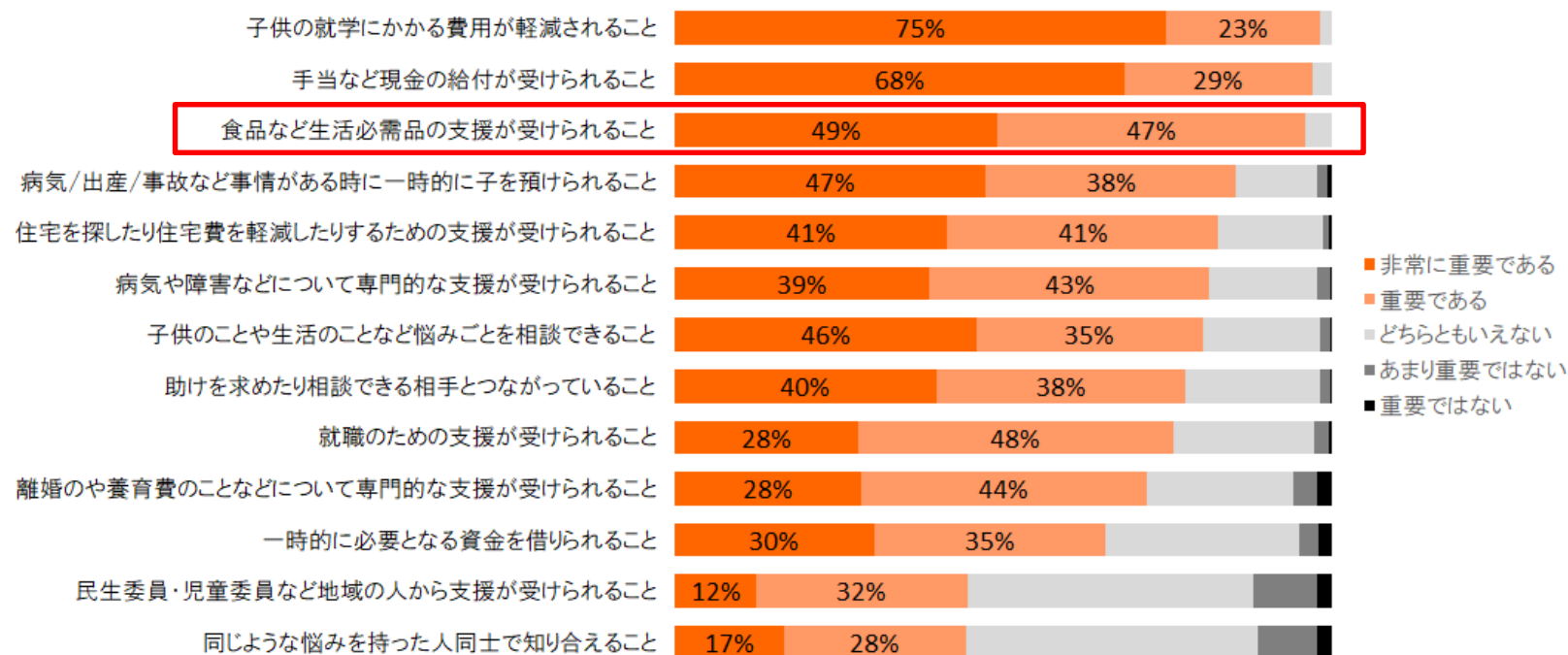
修学資金の貸付・奨学金、学習支援、生活資金の貸付、住宅を探す援助については、利用している人が少なく認知度も低い。

Q:あなたは、次のものについて、これまでに実際に利用したことがありますか。また、よかったと思う制度はどのようなものですか。
(それぞれ単回答)



食品など生活必需品の支援に対するニーズは高い。

Q: 以下の支援はどの程度重要だと思いますか。(それぞれ単回答_5段階評価)



「生活状況が厳しくなるリスクが高い世帯」の定義を設定するために、アンケートの自由記述や専門機関との協議をもとに、以下の6つの課題に注目して分析を行った。

注目した課題
家計の状況
生活困難の状況
「病気・病歴・障害・介護」の有無
こどもの体験機会の欠如
精神的なストレスの度合い
相談相手の有無

サマリー:「生活状況が厳しくなるリスクが高い世帯」の定義設定

以下の視点から、こども宅食プロジェクトにおいては「課題が3つ以上ある世帯」を生活状況が厳しくなるリスクが高い世帯として設定し、食品と一緒に届ける情報の最適化、紹介する支援サービスの充実を進めていくこととした。

重複する課題の数が多いと、生活満足度が下がる傾向がある

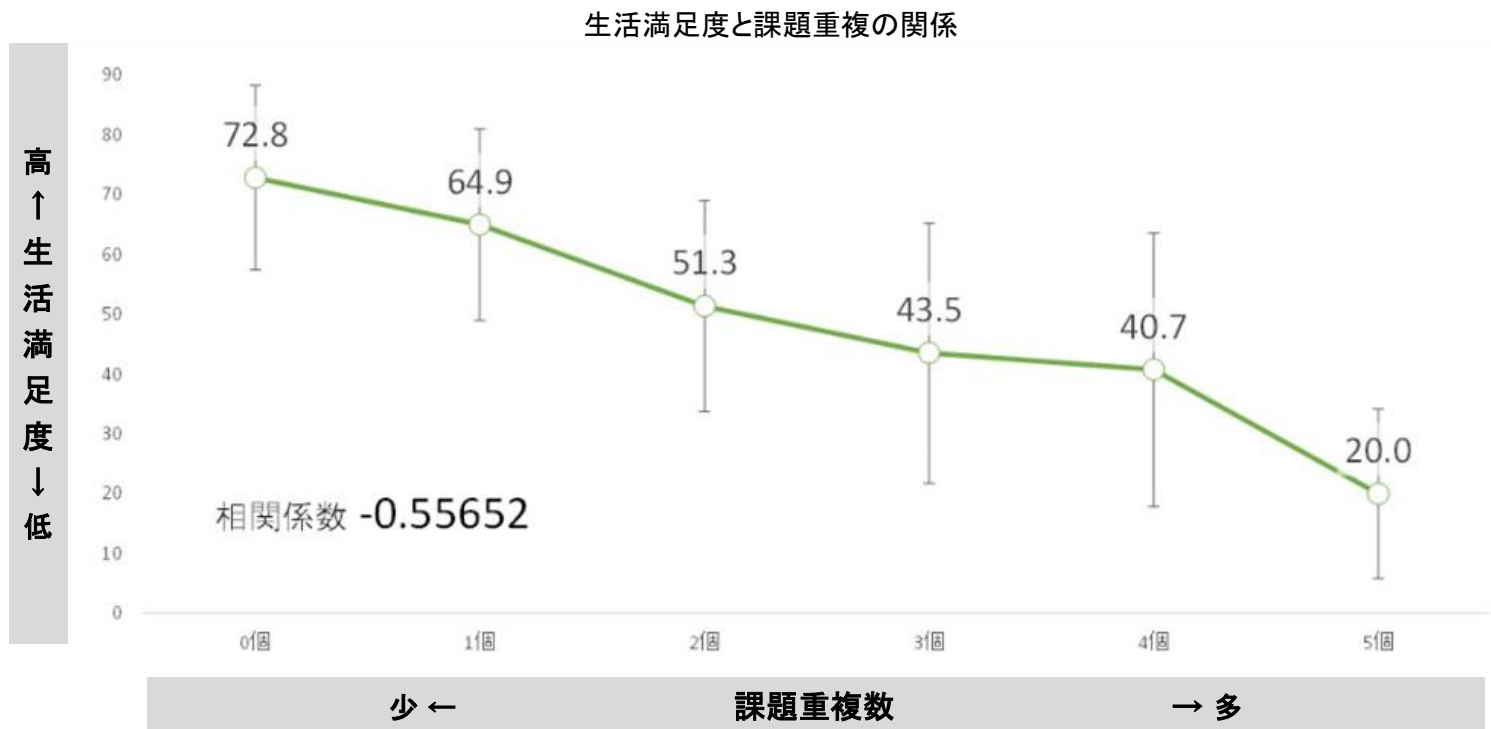
課題が3つ以上ある世帯は、課題0個の世帯と比べ、
生活状況が厳しく、支援に関するニーズも高い

課題が3つ以上ある世帯は、見られないで支援を受けたい、というニーズが特に高い

課題が3つ以上ある世帯(※)を「生活状況が厳しくなるリスクが高い」として設定

※ 以降のスライドでは「課題重複世帯」の略称で表記

該当する課題の数が多いほど、生活満足度が低い傾向が見られた。



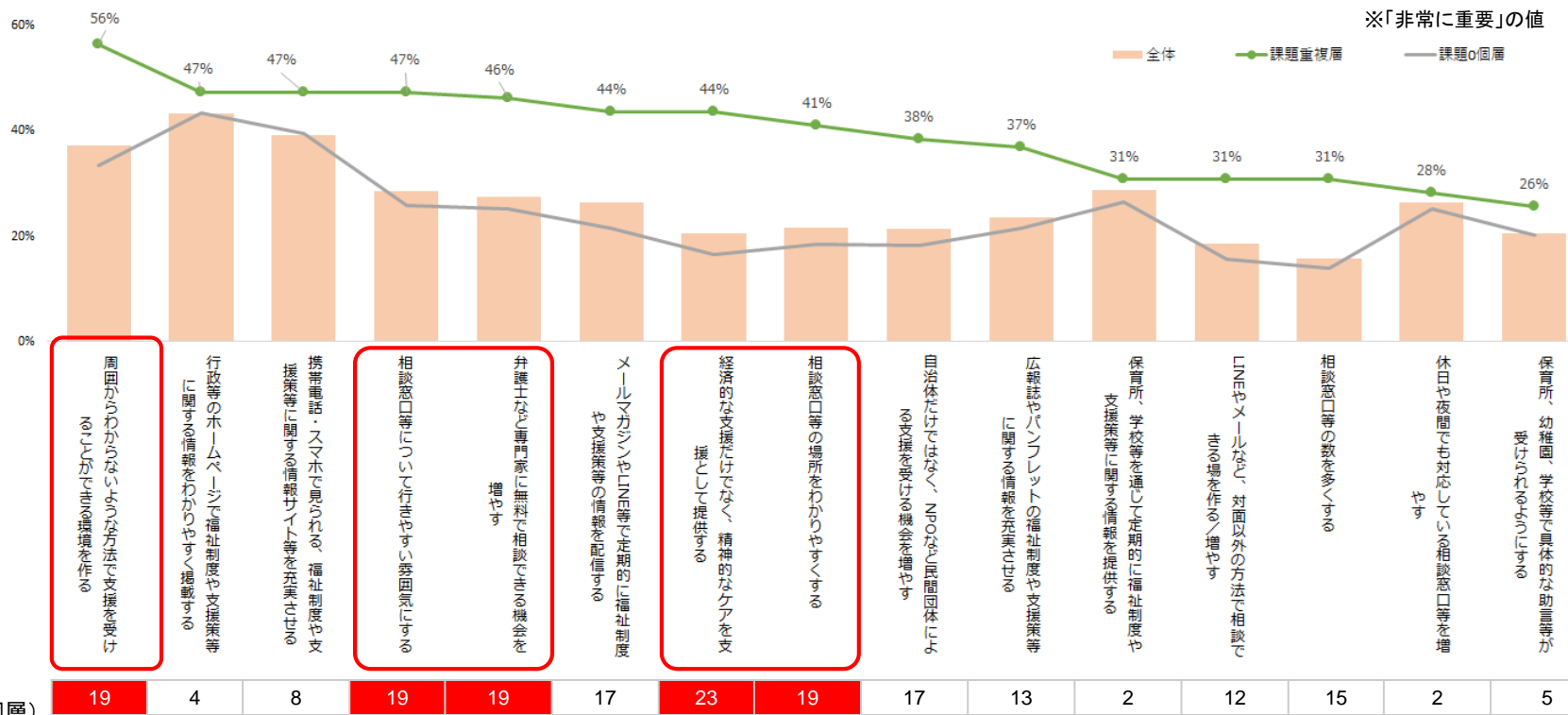
課題重複世帯はその他の世帯に比べより厳しい状況にあり、支援に対するニーズが高い。

- ❑ 母親の正社員率が低く、無職の割合が高い傾向がある
- ❑ 約半数が世帯年収200万円未満(全体では約3割)
- ❑ 半数弱が生活満足度30点未満(全体では約1割)
- ❑ 8割が子育てに関してネガティブな経験を持っている(全体は約半数)
- ❑ 経済面に加え、教育や就労面での困り度が高い傾向がある
(「教育」「情緒の不安定」「子供との関係」「就労関連」、で全体との差が大きい)
- ❑ 支援については、食材など生活必需品の提供に加え
助けを求めたり相談できる相手とのつながり、専門的な支援のニーズが高い
- ❑ 周囲からわからないように支援を受けられることがより重視されている一方、
精神的なケアや相談に関するニーズも高い

サマリー：課題重複世帯の特徴

課題重複世帯は「周囲からわからないような方法で支援を受けること」のニーズがトップ。
 「精神的なケア」および個別相談に関わる項目のスコアも課題0個世帯より20ポイント程度高い。

Q: 必要な支援を受けられるようにするために重要だと思うことはなんですか。(それぞれ単回答_5段階評価)



3. 調査結果詳細

3-1 こども宅食対象世帯の生活実態

第3回アンケート調査結果のうち、今回のレポートに掲載した内容は以下の通り。

- 世帯年収
- 家計の状況
- 公共料金の支払い状況
- 生活、子育ての困りごと
- 病気・病歴・障害や介護の有無
- 剥奪指標
- 子育てに関する問題
- 直近1ヶ月の精神面の状況
- 現在の生活満足度
- 相談相手の必要性
- 子育てに関する相談先

<< 用語解説 >>

-「n」: 有効回答者数

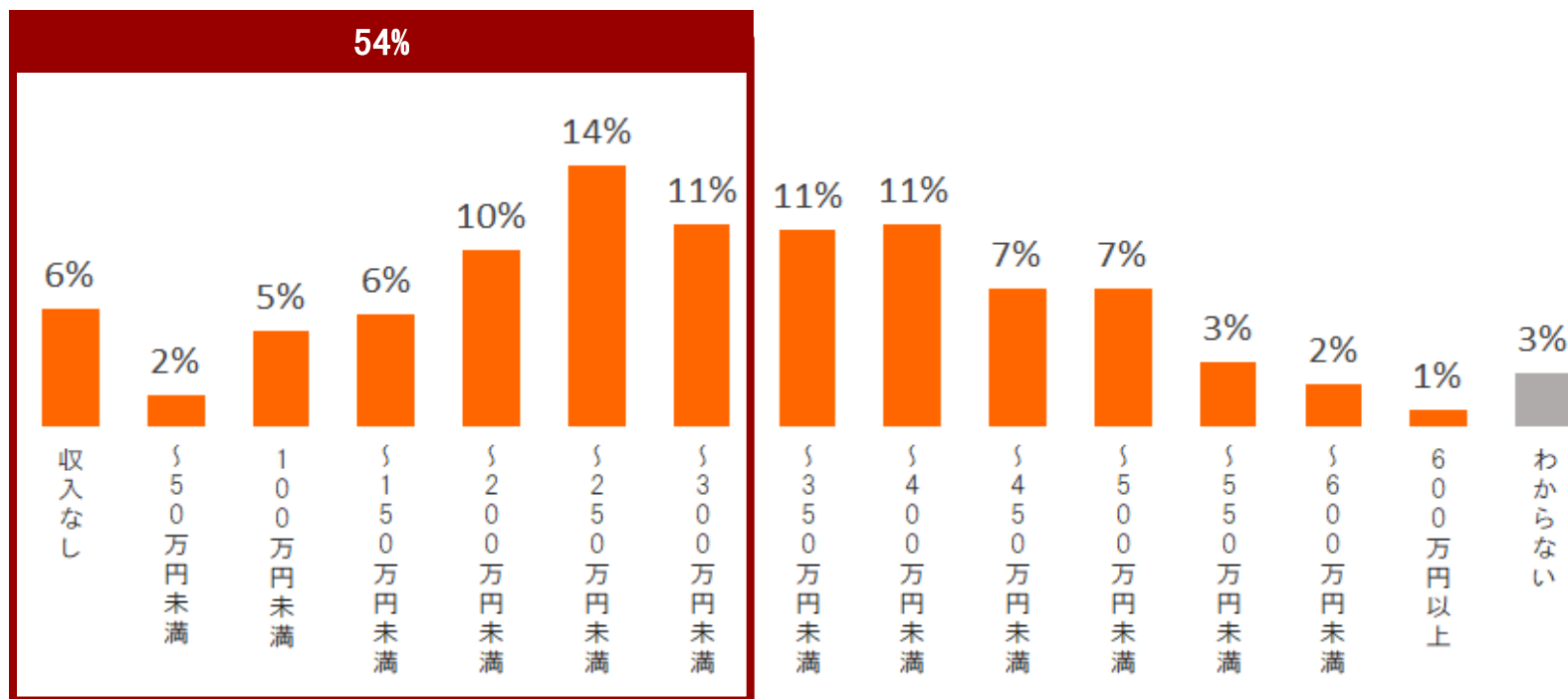
-「剥奪指標」: 社会の中で生活に必要と判断される、衣食住といった物品やサービス、社会的活動などの項目を選定し、その充足度を指標化したもの。

-「K6指標」: 米国のKesslerらによって、うつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的として開発され、一般住民を対象とした調査で心理的ストレスを含む何からの精神的な問題の程度を表す指標として広く利用されている。日本語版の指標は本プロジェクトのアンケート票もしくは[こちら](#)を参照のこと。

-「再掲」: 「2.調査結果サマリー」にて掲載済みの内容を再掲しているページに記載。

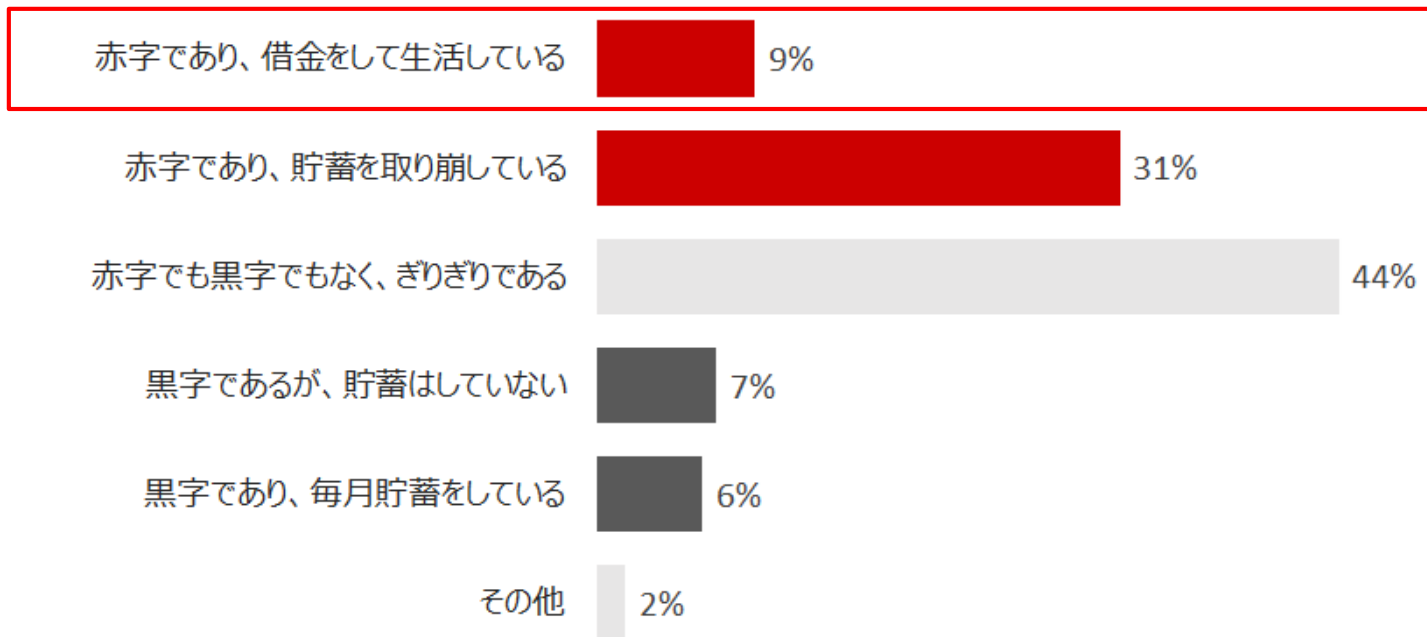
世帯年収300万円以下の世帯が約半数を占める。

Q: お子さんと生計を共にしている世帯全員の方の、おおよその年間収入(税込)はいくらですか。(単回答)
(就学援助や児童扶養手当など、公的年金と社会保障給付金は除く)



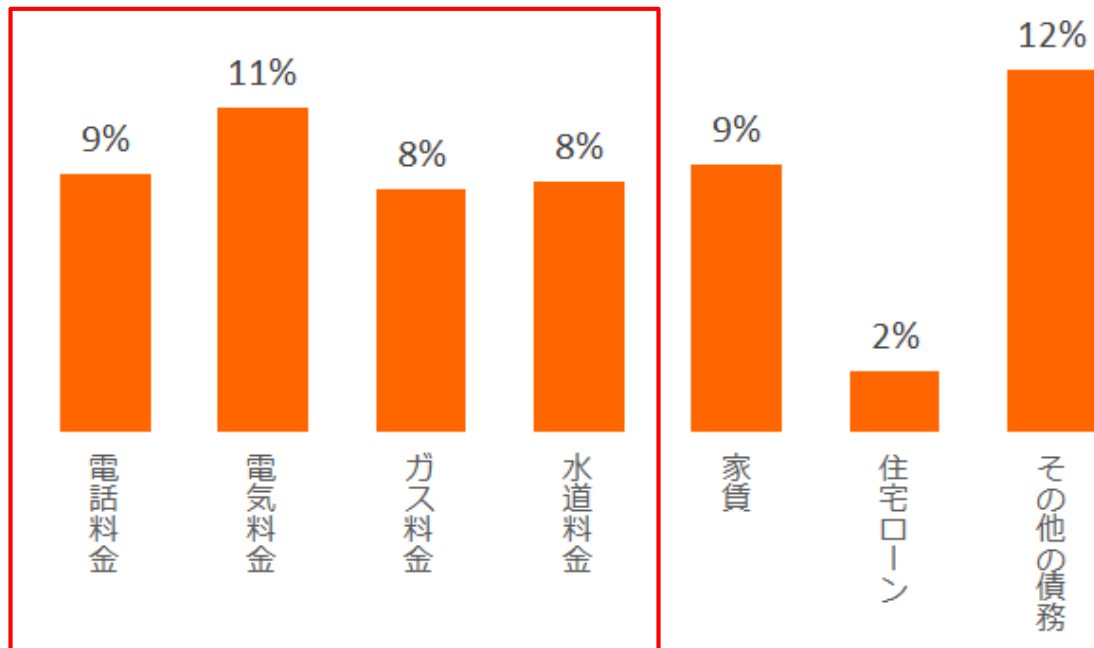
約1割の世帯が借金をして家計をやりくりしている。

Q:ご家庭の家計について、もっとも近いものをお答えください。(単回答)



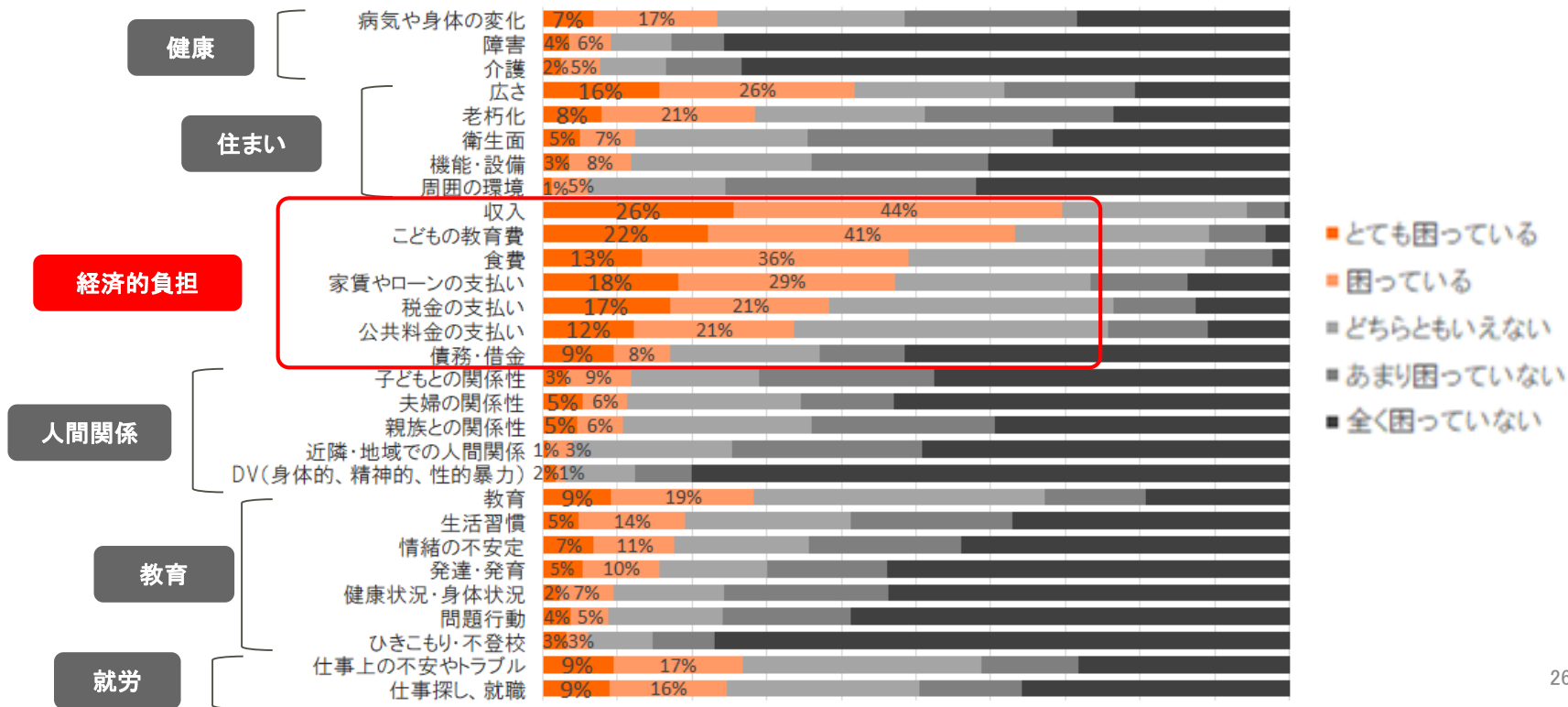
過去1年間に公共料金（電話、電気、ガス、水道料金）の支払いができないことがあったのは、それぞれ1割程度。

Q: 過去1年の間に、経済的な理由で、以下のサービス・料金について、支払えないことがありましたか。（それぞれ単回答）



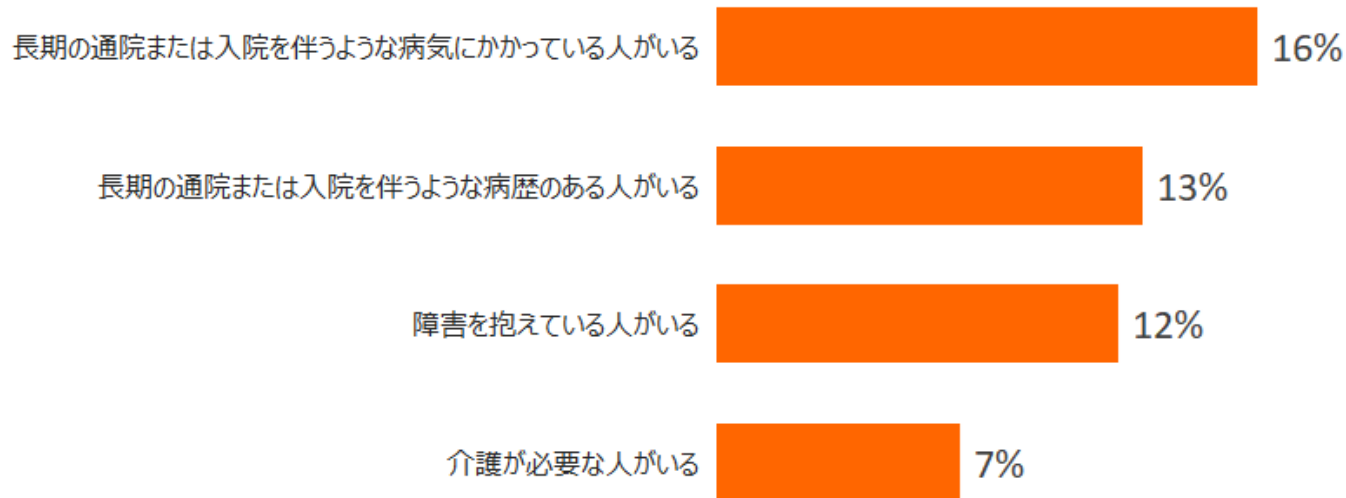
収入や教育費・食費など、経済的負担で困っている人が多い傾向。

Q: 生活や子育ての中での困りごとについて、ご家庭の状況について当てはまるものをお選びください。(それぞれ単回答_5段階評価)



家族に「病気・病歴・障害・介護」の必要性がある人がいる世帯はそれぞれ1割前後。

Q:同居しているご家族に、長期の通院または入院を伴うような病気・病歴、障害または介護がある人はいますか。(それぞれ単回答)



家族の病気・病歴・障害・介護
のいずれかに該当

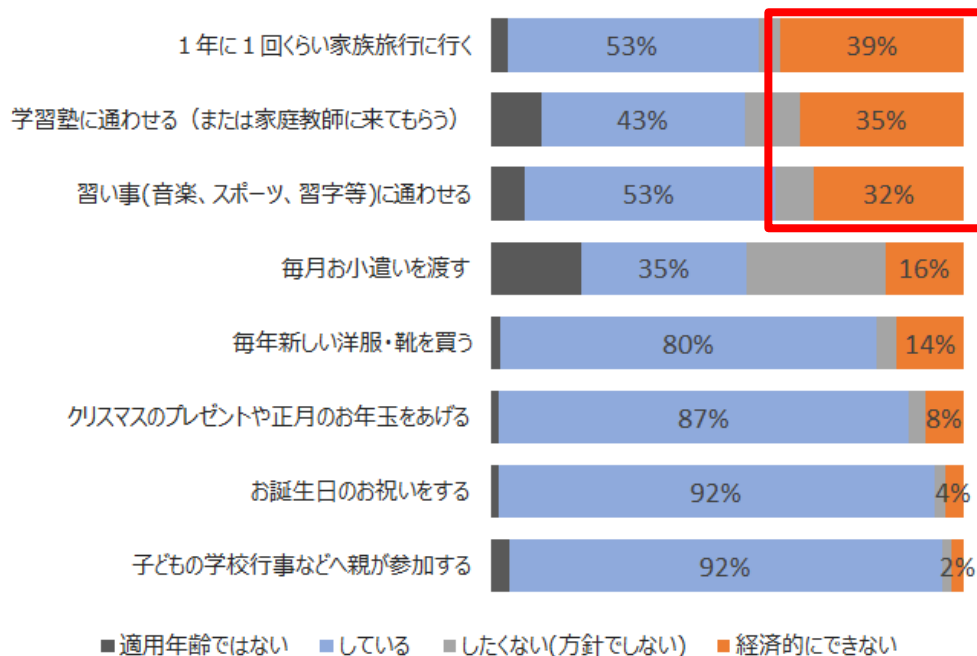
97 世帯

(ほぼ4世帯に1世帯の割合)

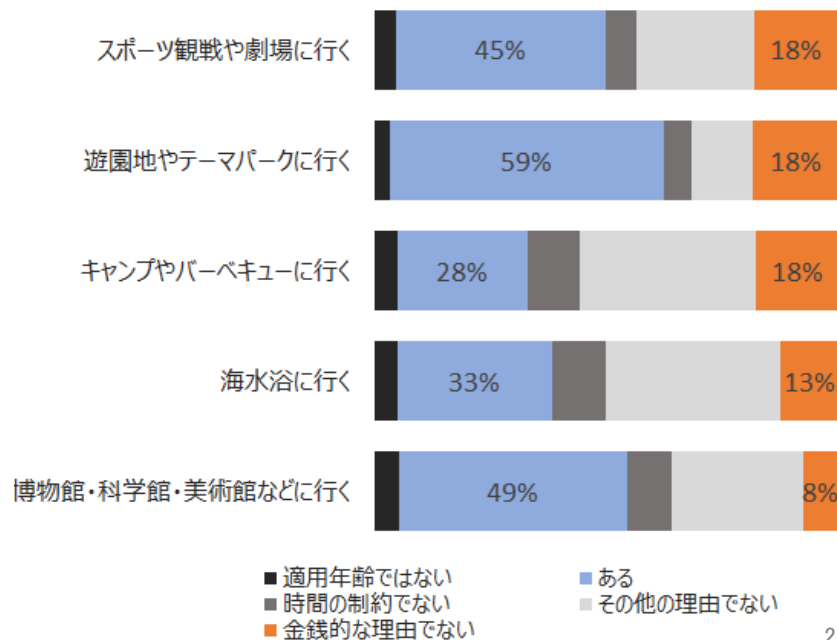
剥奪指標(※)のうち、「家族旅行に行く」「学習塾・習い事に通わせる」ことが、
経済的な理由でできていない家庭が3割以上。

※ 剥奪指標についてはP.22の記載を参照のこと

Q: 過去1年間において、あなたのご家庭では、お子さんと次のような
体験をしましたか。(それぞれ単回答)



Q: あなたのご家庭では、お子さんに次のことを
していますか。(それぞれ単回答)

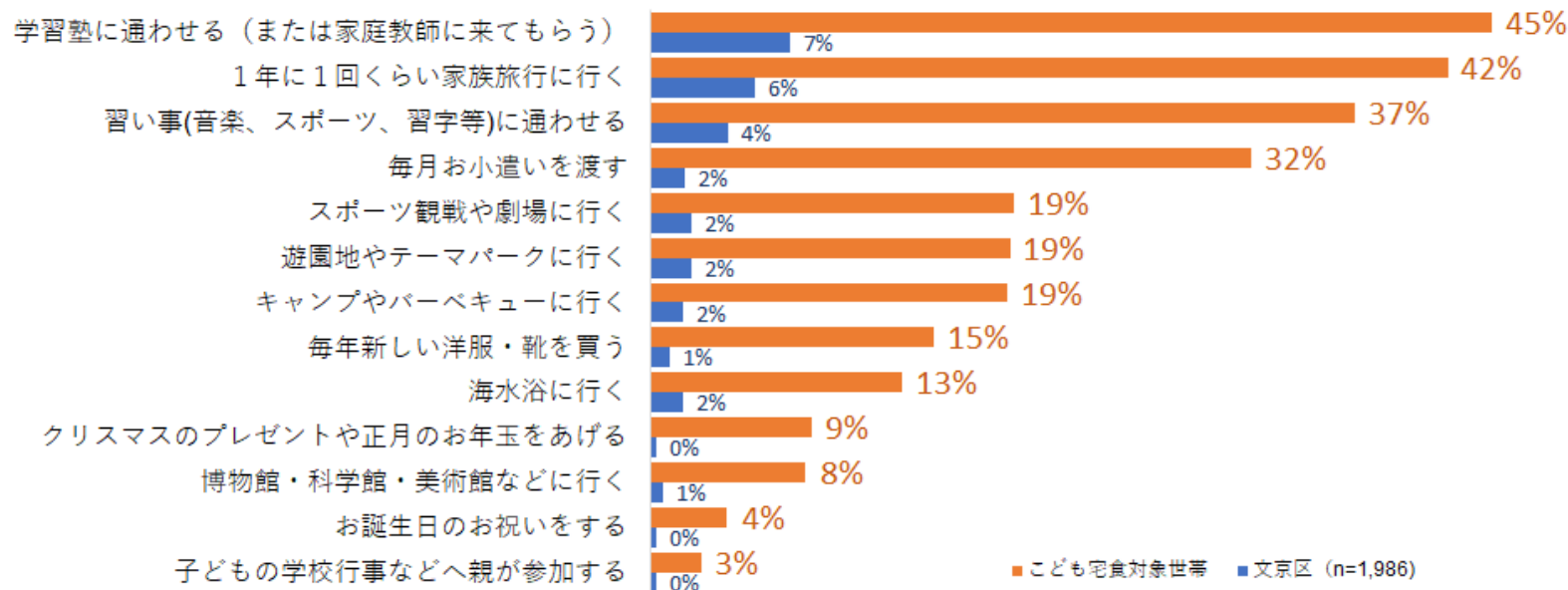


剥奪指標(※)については、区全域に居住する子どもを養育する世帯では数%であるのに対し、こども宅食利用世帯では10%を超えるものが多く、その差は大きい。

剥奪指標の各項目について「経済的な理由でできない、やらない」を選択した人の割合

(母数から「適用年齢でない」「方針でない」を除いて最集計したもの)

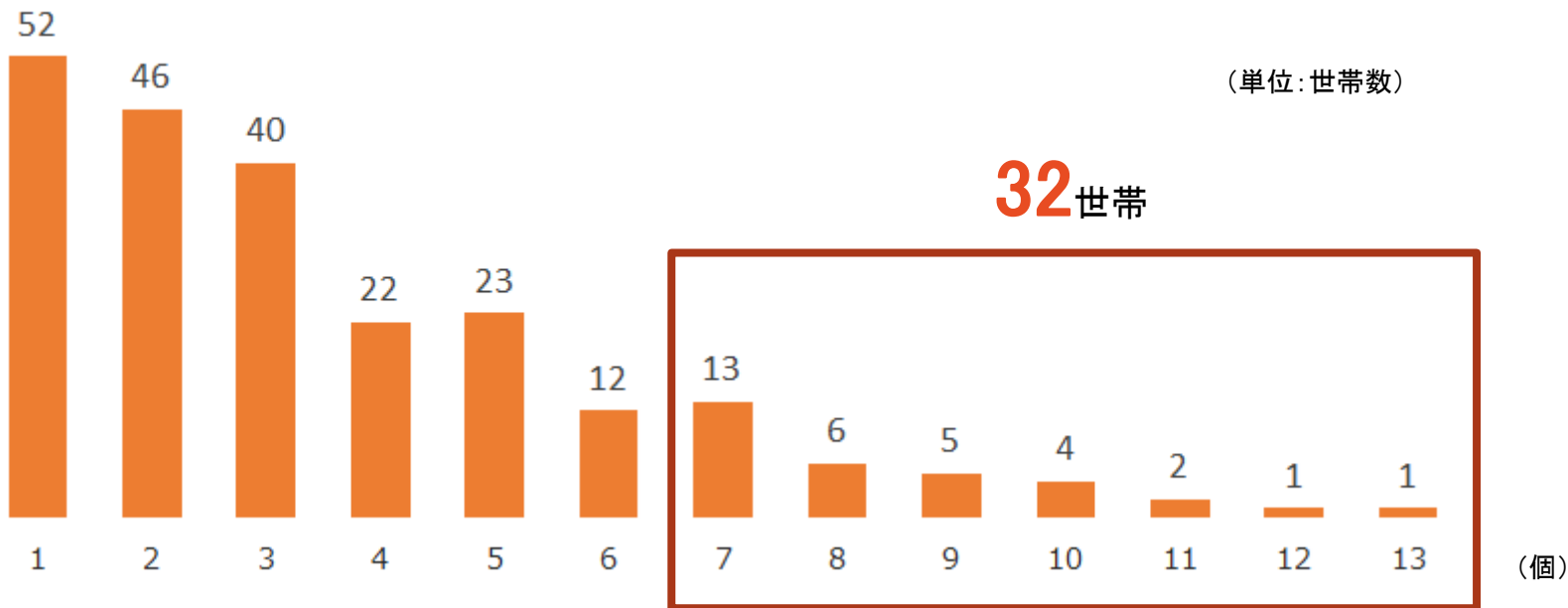
※ 剥奪指標についてはP.22の記載を参照のこと



剥奪指標(※)として挙げた活動(13項目)のうち、半数以上できていない家庭は32世帯であり、回答した世帯の約1割となっている。

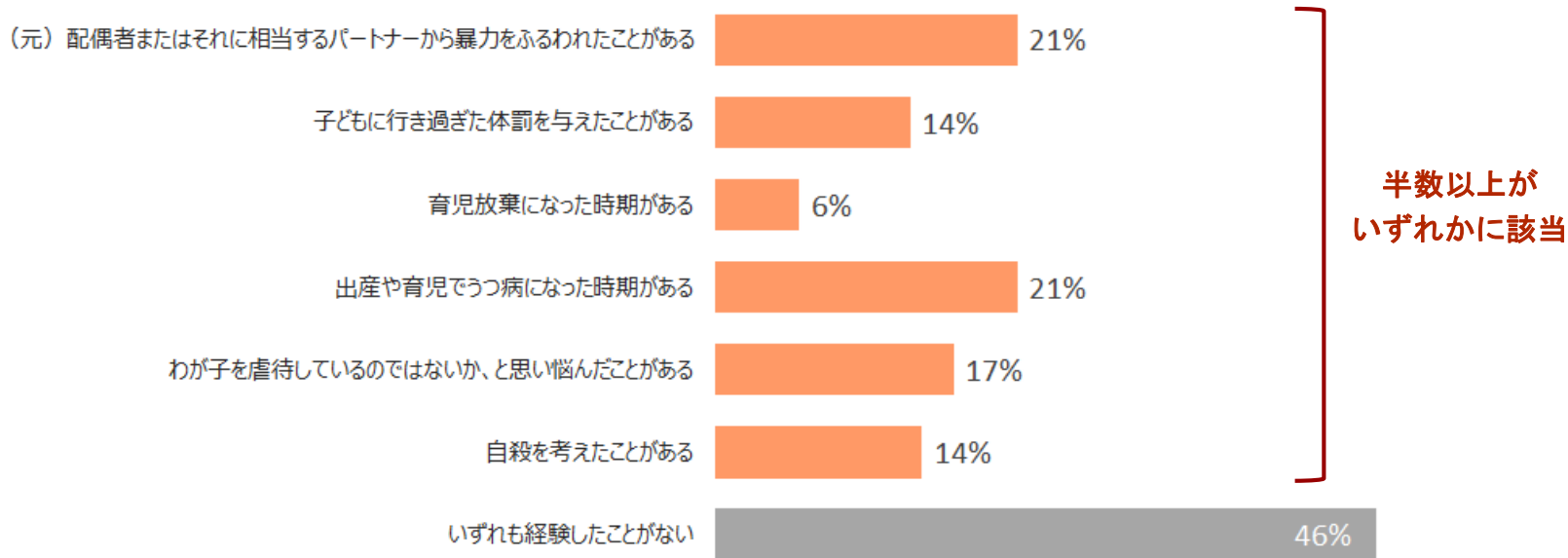
※ 剥奪指標についてはP.22の記載を参照のこと

剥奪指標の重複数



DVや周産期のうつ病等、ネガティブな体験のいずれかをしたとする人が半数(※)を超える。

Q:あなたは、子育てにかかわってから以下のような経験をしたことがありますか。(「いずれも経験したことがない」を除き複数回答)

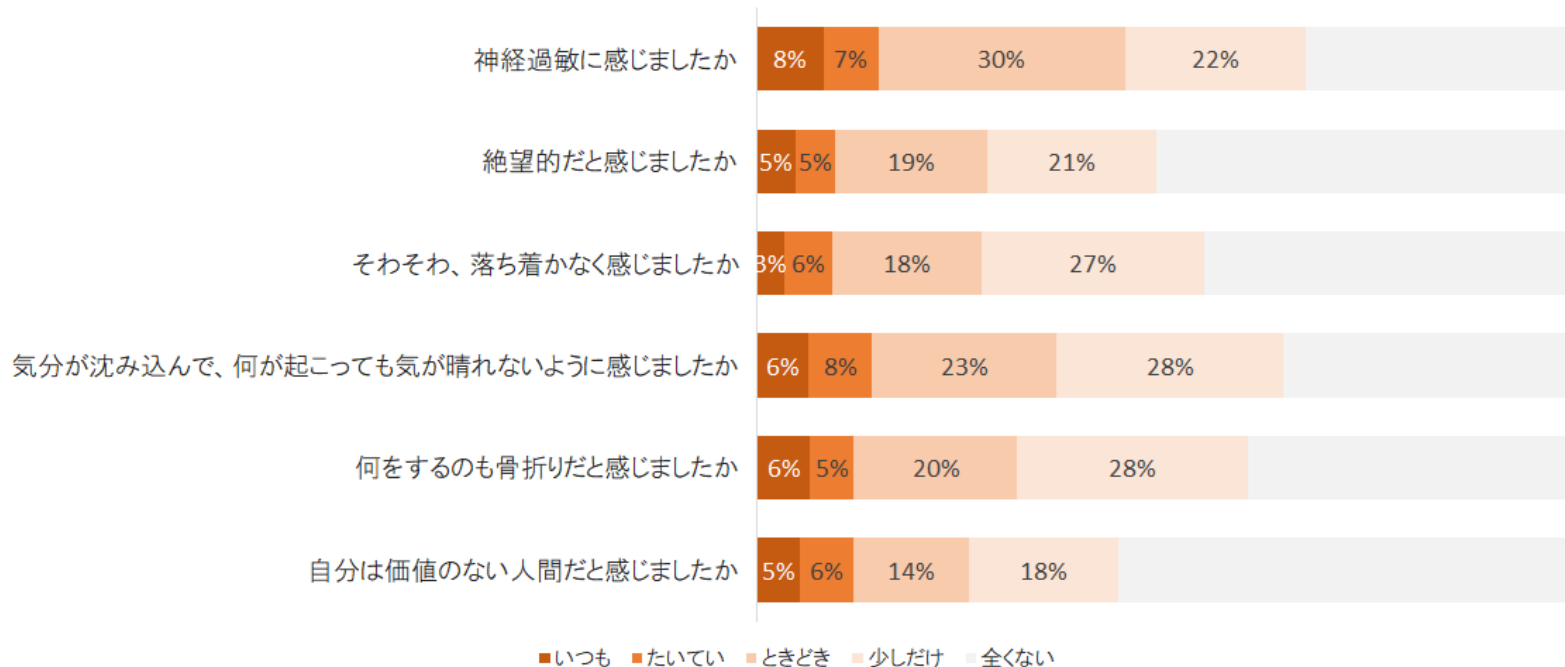


※ 半数 = 全体(100%)から「いずれも経験したことがない(46%)」を引いた値

精神的な問題について、それぞれ1割程度の人が頻繁に感じている。
 (約3割がK6指標(※)で「うつ病や不安障害の可能性が高い」とされる水準に該当)

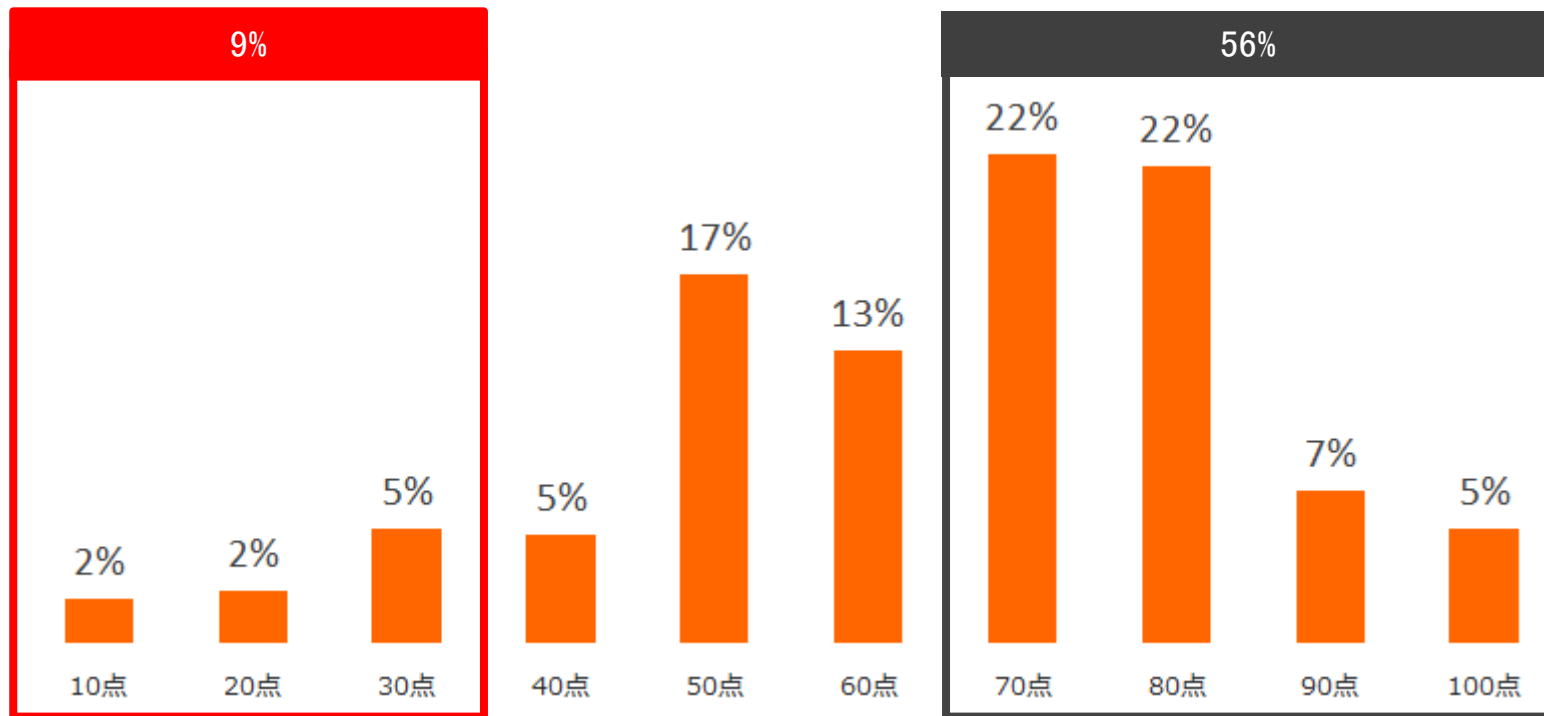
※ K6指標についてはP.22の記載を参照のこと

Q: 次のそれぞれの質問について、あなたは、過去1か月の間にどのように感じましたか。(それぞれ単回答)



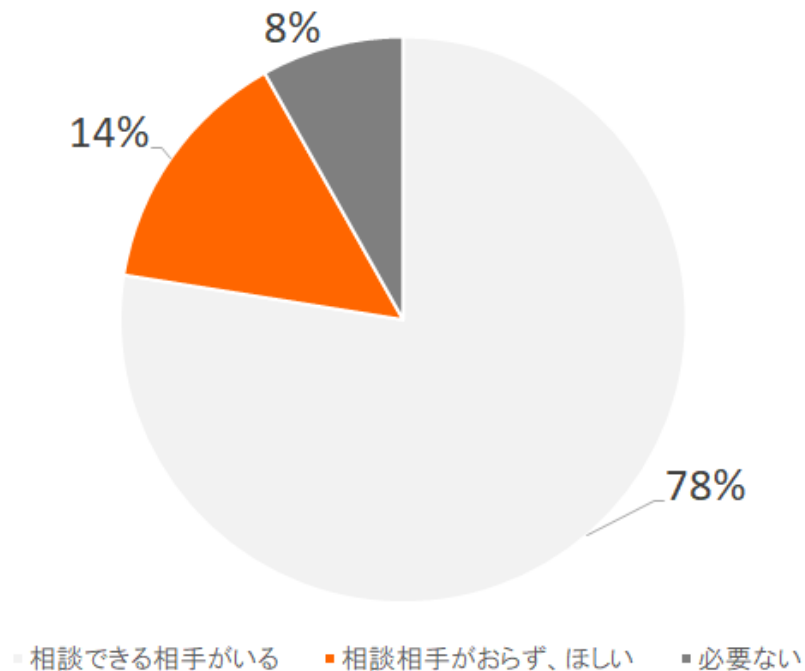
現状の生活満足度について、半数以上が100点満点中70点以上をつけている一方、30点以下の点数の低い世帯が約1割存在している。

Q: あなたの現在の生活に対する満足度について点数をつけると、100点満点で何点になりますか。



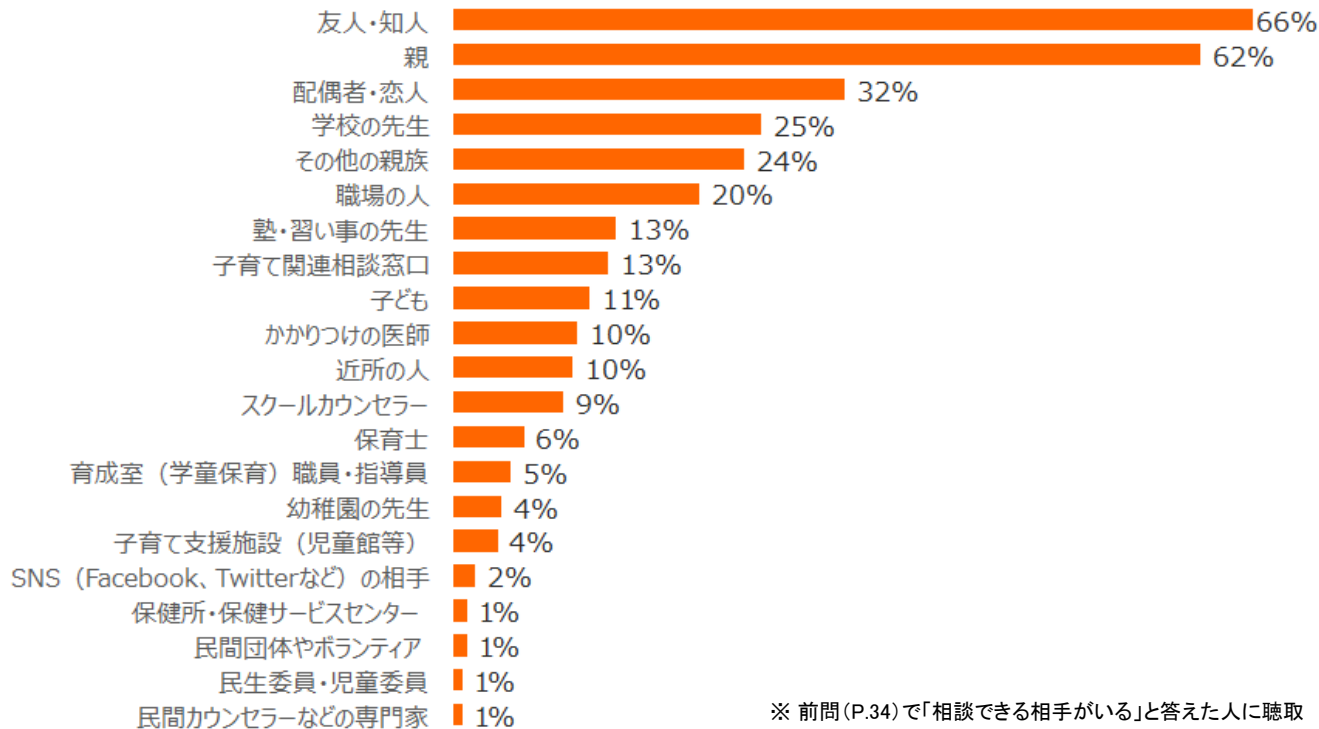
相談相手がおらず、求めている人は14%。

Q:あなたには、子育てや生活の悩みを心おきなく相談できる相手がありますか。(単回答)



相談相手としては友人、知人や親、配偶者・恋人など身近な人が多い。
 専門機関、専門家への相談は1割程度。

Q: お子さんの子育て(教育を含む)に関して、気軽に相談できる先は誰(どこ)ですか。(複数回答)

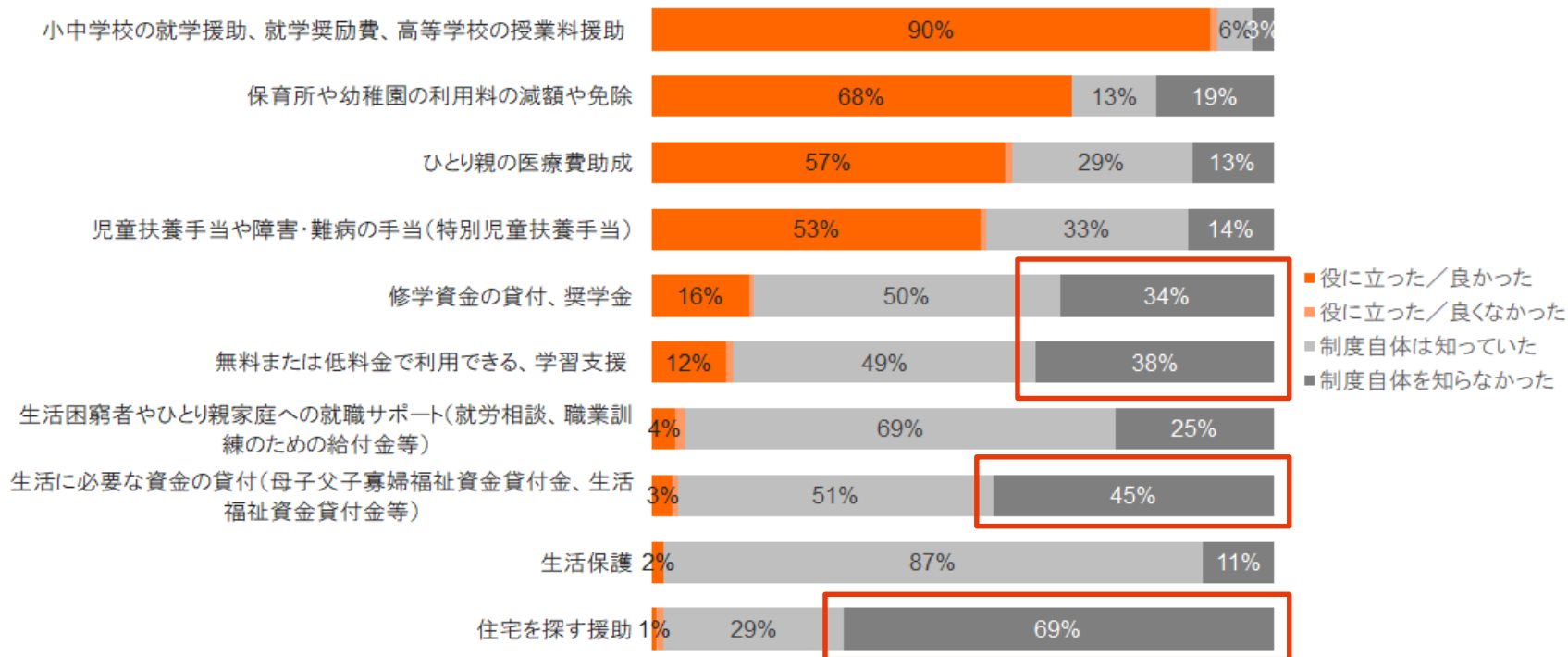


※ 前問(P.34)で「相談できる相手がいる」と答えた人に聴取

3-2 支援サービスの認知 / 利用状況とニーズ

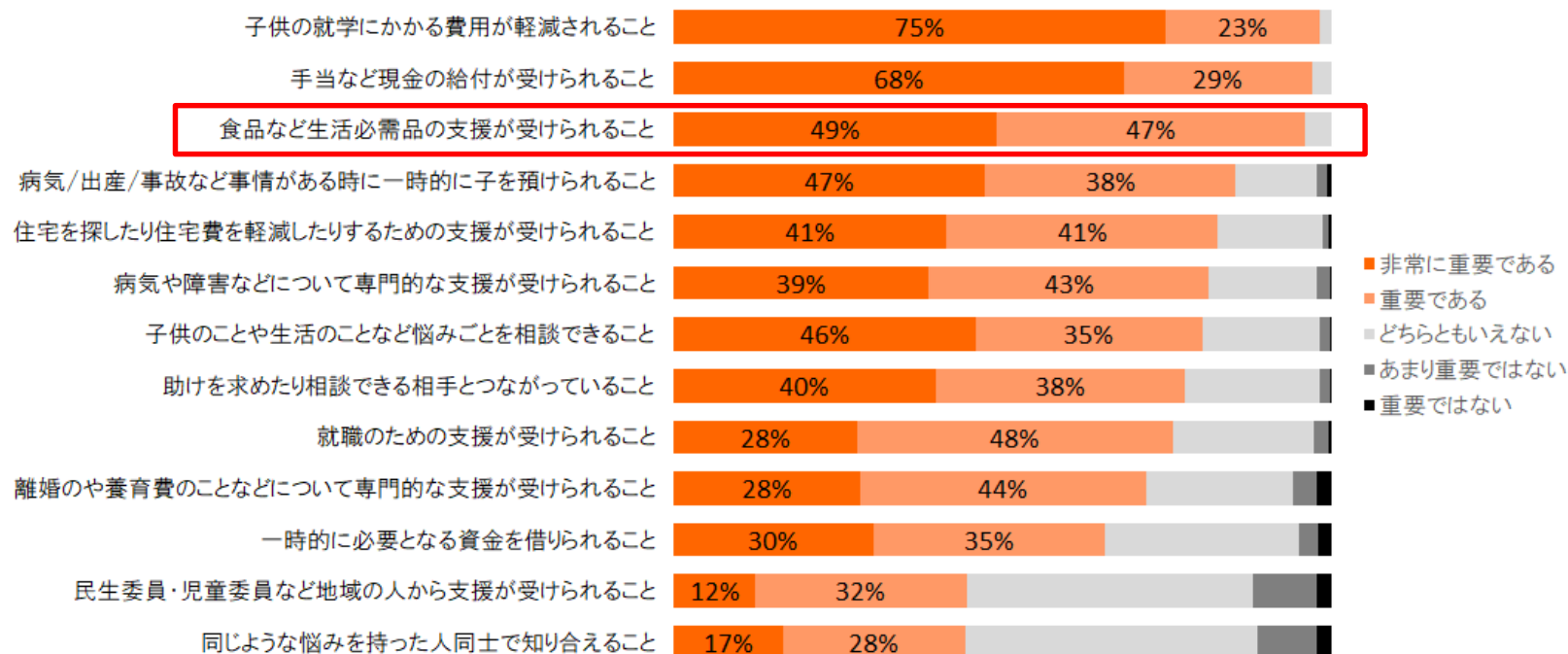
修学資金の貸付・奨学金、学習支援、生活資金の貸付、住宅を探す援助については、利用している人が少なく認知度も低い。

Q:あなたは、次のものについて、これまでに実際に利用したことがありますか。また、よかったと思う制度はどのようなものですか。
(それぞれ単回答)



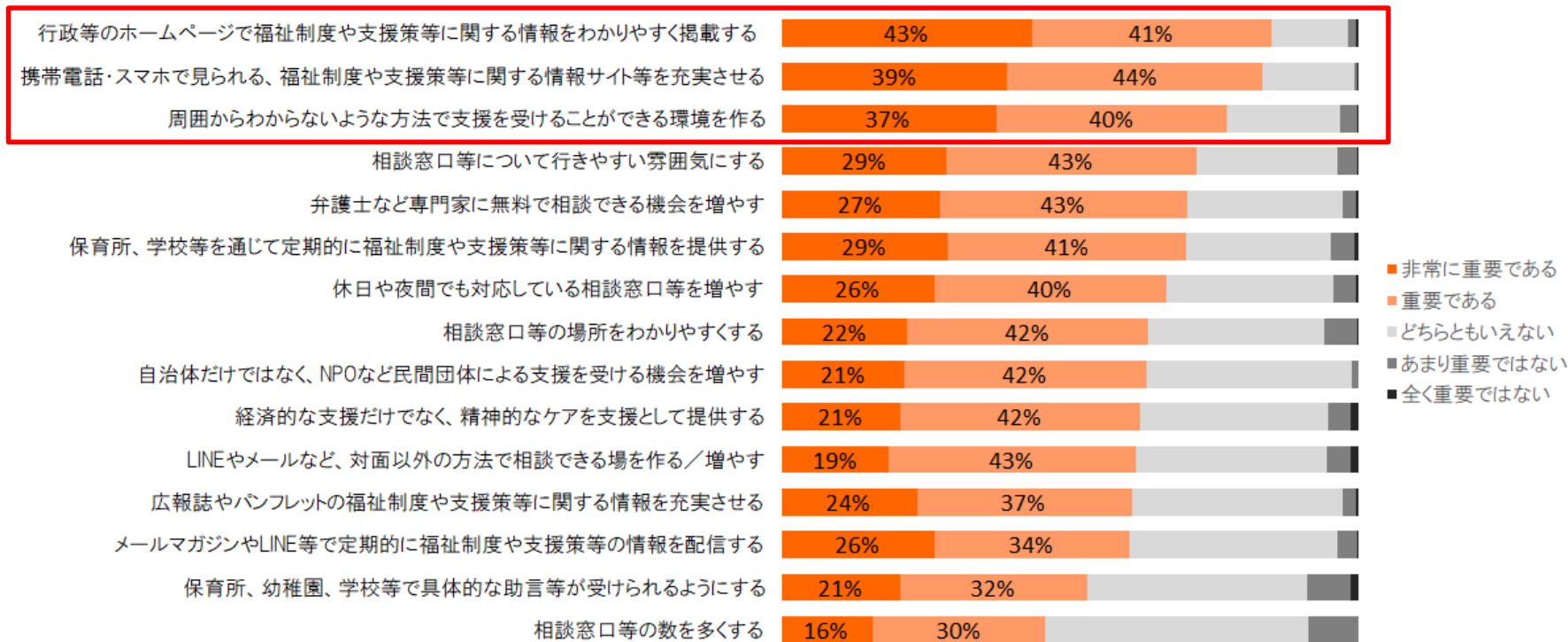
食品など生活必需品の支援に対するニーズは高い。

Q: 以下の支援はどの程度重要だと思いますか。(それぞれ単回答_5段階評価)



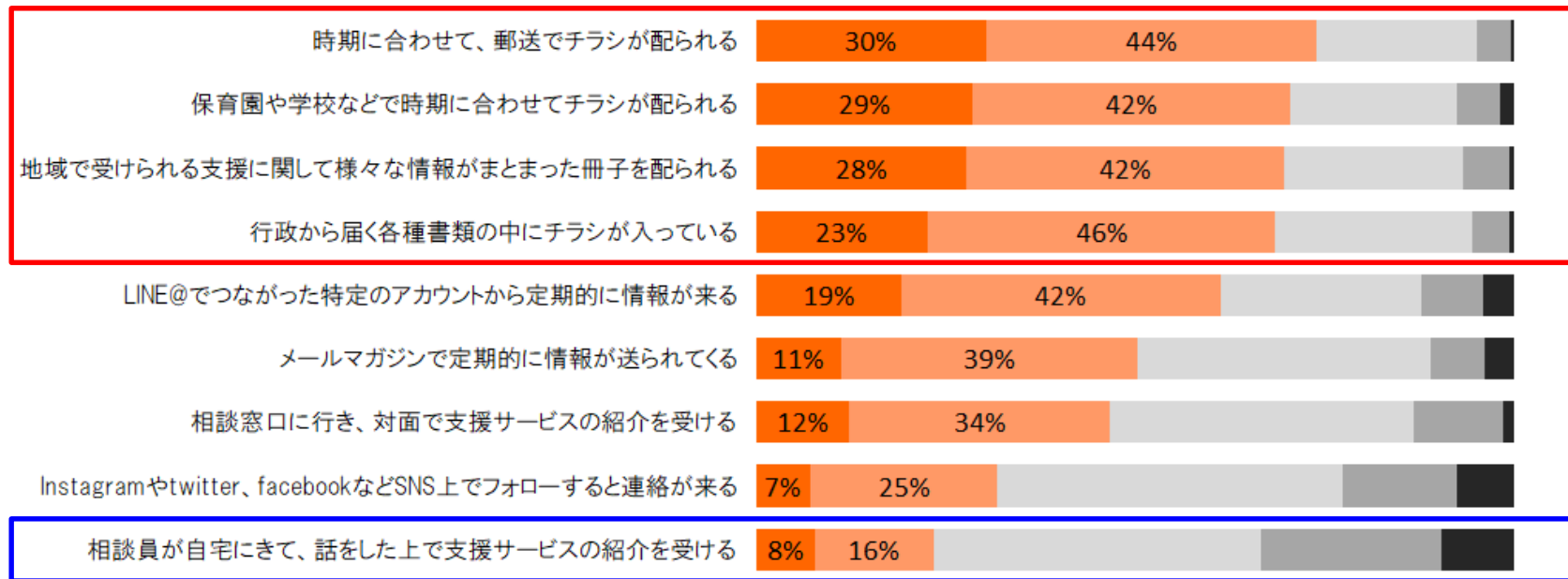
スマホやPCで適切な情報にアクセスしやすいこと、周囲からわからないように支援を受けられる環境があることを重視する割合が高い。

Q:必要な支援を受けられるようにするために重要だと思うことはなんですか。(単回答_5段階評価)



支援に関する情報の受け取り方法として、チラシや冊子を希望する人が多い。
一方で自宅への訪問については希望しない人が多い。

Q: 支援に関する情報はどのような手段で受け取りたいですか。(それぞれ単回答_5段階評価)



■とてもよいと思う ■よいと思う ■どちらともいえない ■あまりよくないと思う ■全くよくないと思う

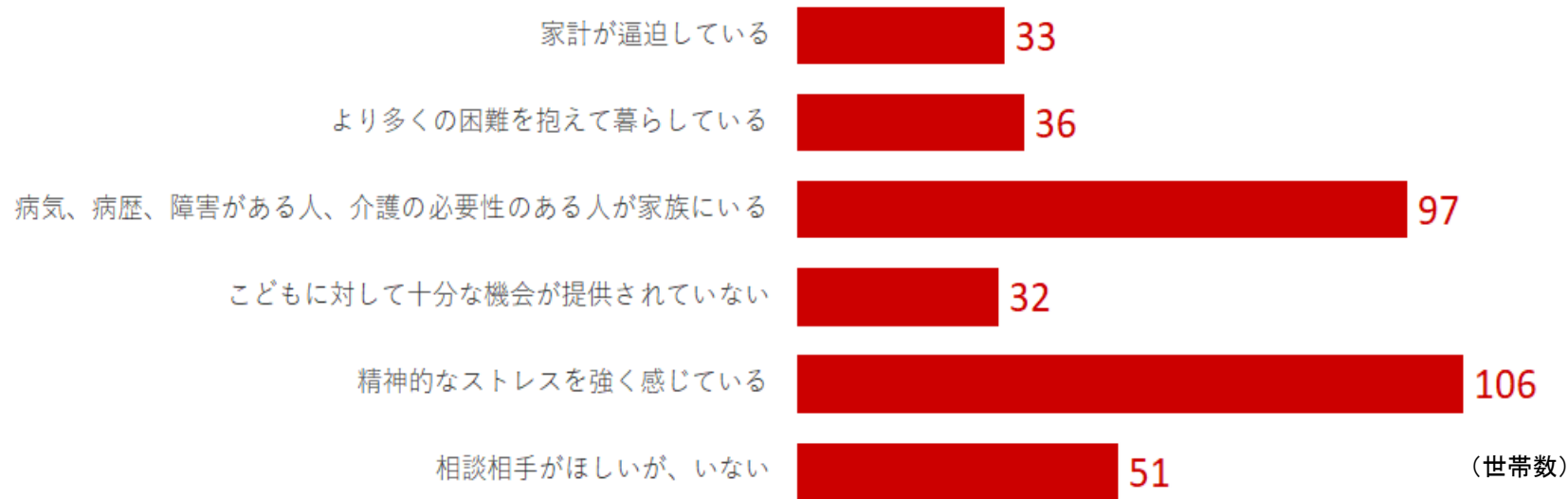
3-3 「生活状況が厳しくなるリスクが高い世帯」の定義設定

「生活状況が厳しくなるリスクが高い世帯」の定義を設定するために、アンケートの自由記述や専門機関との協議をもとに、以下の6つの課題に注目して分析を行った。

注目した課題
家計の状況
生活困難の状況
「病気・病歴・障害・介護」の有無
こどもの体験機会の欠如
精神的なストレスの度合い
相談相手の有無

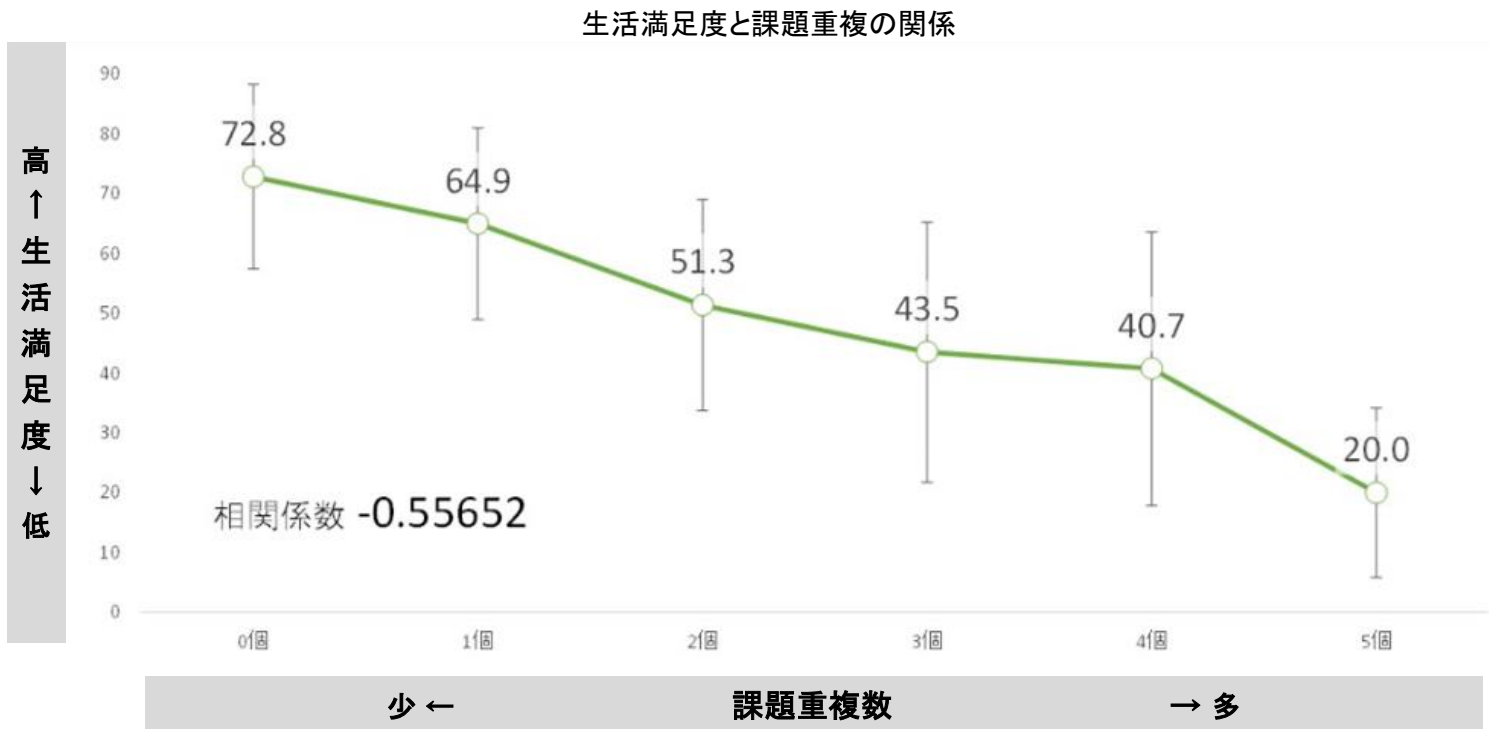
注目した6つの課題を抱えている世帯の数は以下の通り。

注目した6つの課題を抱えている世帯



3-3 「生活状況が厳しくなるリスクが高い世帯」の定義設定

該当する課題の数が多いほど、生活満足度が低い傾向が見られた。



課題重複世帯はその他の世帯に比べより厳しい状況にあり、支援に対するニーズが高い。

(詳細はP50以降に記載)

- ❑ 母親の正社員率が低く、**無職の割合が高い**傾向がある
- ❑ **約半数が世帯年収200万円未満**(全体では約3割)
- ❑ **半数弱が生活満足度30点未満**(全体では約1割)
- ❑ **8割が子育てに関してネガティブ**な経験を持っている(全体は約半数)
- ❑ **経済面に加え、教育や就労面での困り度が高い**傾向がある
(「教育」「情緒の不安定」「子供との関係」「就労関連」、で全体との差が大きい)
- ❑ 支援については、食材など生活必需品の提供に加え
助けを求めたり**相談できる相手とのつながり、専門的な支援**のニーズが高い
- ❑ **周囲からわからないように支援を受けられる**ことがより重視されている一方、**精神的なケア**や**相談**に関するニーズも高い

自由記述の回答からも 課題重複世帯の置かれている環境の厳しさが伺える。

Q: (生活満足度について) その点数をつけた理由について、具体的にお聞かせください。

重複5個世帯(抜粋)

- 子供に食べさせることを優先にしていると、**公共料金や学校の集金が払えなくなり、自分の食べる分を控えていたら、人間ドッグでやせすぎと注意を受け、栄養が足りていないと言われてしまった。**周囲の子と差が出ないよう、服や持ち物を気遣っているつもりだが、ちょっとしたガマンがツライことがあるようで、どうしてやることもできず一人親の限界を感じるようになった。
- 家族個人には問題なくても、**借金や、収入などで毎日、不満が出たり、明るい一日が送れない。毎日が苦。**
- **なんとか生きのびている感じです。**経済的に困っているので精神的にも負担が大きいです。子供たちにも満足な生活を与えられず苦しいです。

重複4個世帯(抜粋)

- 子どもがいるので遅くまで残業のある正社員にはなれない。アルバイトでも聞かれる。働いているときに、子どもの学校行事に出にくかった。別に住んでいる夫の親の暴言や行動に**精神的にまいっている。かなりのストレス**で別居している。
- 義母の性格がいじわるで同居が辛く、夫は全く頼りにならず勝手な生活を送り、収入が不安定で、債務がいくらあるのか知らず公共料金など滞納したり、仕事の請求書の督促状が来たり経済的に不安であり、子どもが思春期で反抗的で、家族の誰ともうまくいかず**毎日がしんどく、生きているのが嫌になり楽しく思えない。**
- がんばっても出口が見えず落ち込む一方です。むくわれない感じのため。

【参考】課題0個世帯の自由記述の回答

Q: (生活満足度について) その点数をつけた理由について、具体的にお聞かせください。

重複0個世帯(抜粋)

- 安定した収入を得られていないため、少しずつ子どもにかかる金額(食費、教育費等)が増えてくるので親子共々幸せになれる方向性を模索中です。
- 収入があまりないことです。
- 健康面、子どもの成長に不安はありませんが、経済的状况により住居が狭い、今後の教育費については想定外の事態が起こった際の不安感が大きいです。
- 収入があまりない。子供の教育費が大変。
- 先々の仕事上の不安がある。自分が病気、ケガをしたら収入が無くなるから。
- ひとり親のため、子供を1人でみなければならず、残業などできず正社員になれない。
- 現在、食事に困るほどの状況ではないが、将来こどもの教育費や自分の老後の生活など不安がある。親の経済的な理由で、こどもが興味を持ったことを応援してあげられない。良い環境を整えてあげられないこと等。

3-3 「生活状況が厳しくなるリスクが高い世帯」の定義設定

以下の視点から、こども宅食プロジェクトにおいては「課題が3つ以上ある世帯」を生活状況が厳しくなるリスクが高い世帯として設定し、食品と一緒に届ける情報の最適化、紹介する支援サービスの充実を進めていくこととした。

重複する課題の数が多いと、生活満足度が下がる傾向がある

課題が3つ以上ある世帯は、課題0個の世帯と比べ、
生活状況が厳しく、支援に関するニーズも高い

課題が3つ以上ある世帯は、見られないで支援を受けたい、というニーズが特に高い

課題が3つ以上ある世帯^(※)を「生活状況が厳しくなるリスクが高い」として設定

※ 以降のスライドでは「課題重複世帯」の略称で表記

3-4 課題重複世帯の特徴

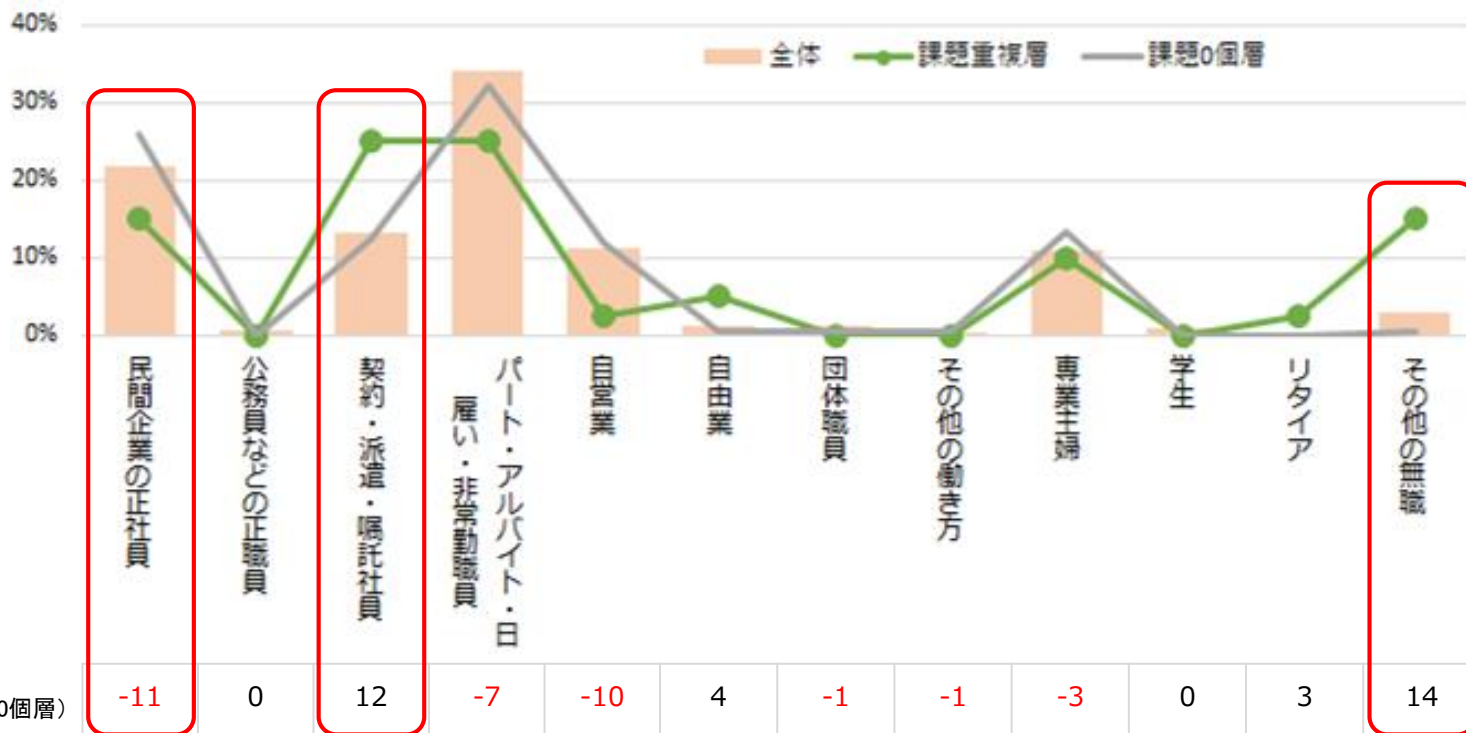
以下の項目について、課題が3つ以上ある世帯と課題0個世帯との比較分析を行っている。

- 母親の職業
- 世帯年収
- 生活満足度
- 子育てに関する問題
- 生活の困り度
- 支援に関するニーズ

3-4 課題重複世帯の特徴

課題重複世帯では、0個世帯と比べ母親の「民間企業の正社員」の割合がやや低い一方、「契約・派遣・嘱託社員」「その他の無職」が多い。

Q: お子さんのお母さまの現在のご職業は、次のどれに最も近いですか。(単回答)



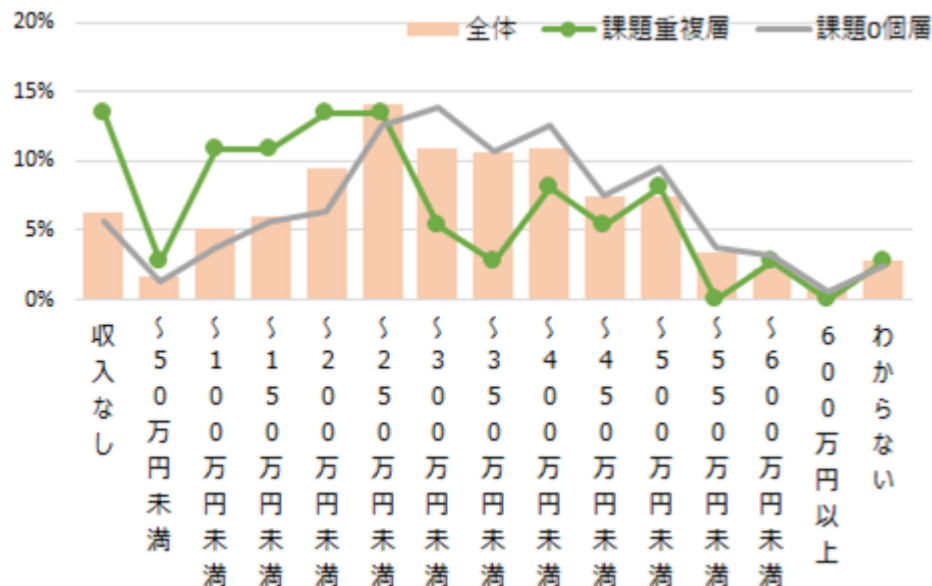
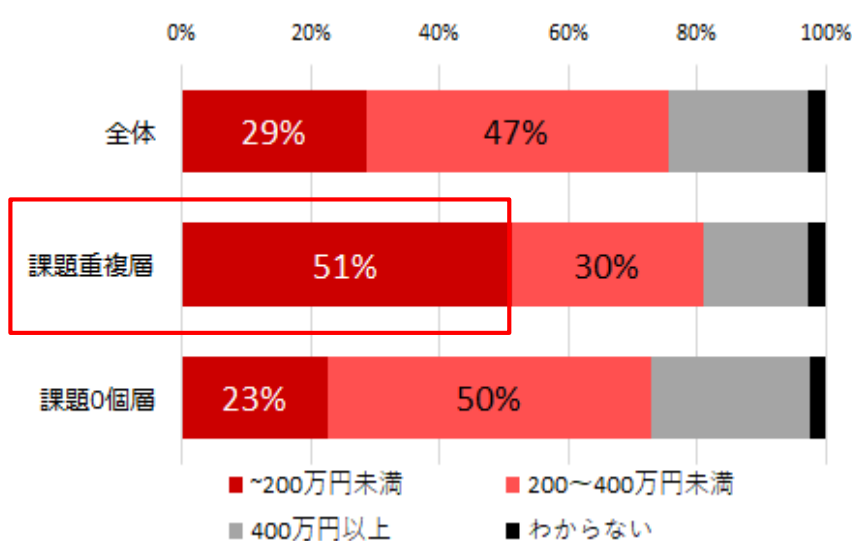
差分(重複層-0個層)

3-4 課題重複世帯の特徴

課題重複世帯の約半数が世帯年収200万円未満。

一方、課題0個世帯では世帯年収200万円～400万円未満がボリュームゾーン。

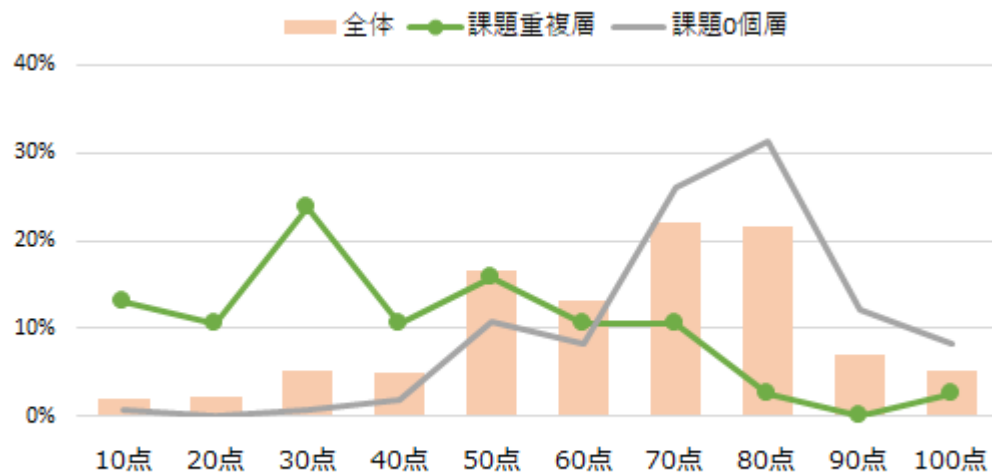
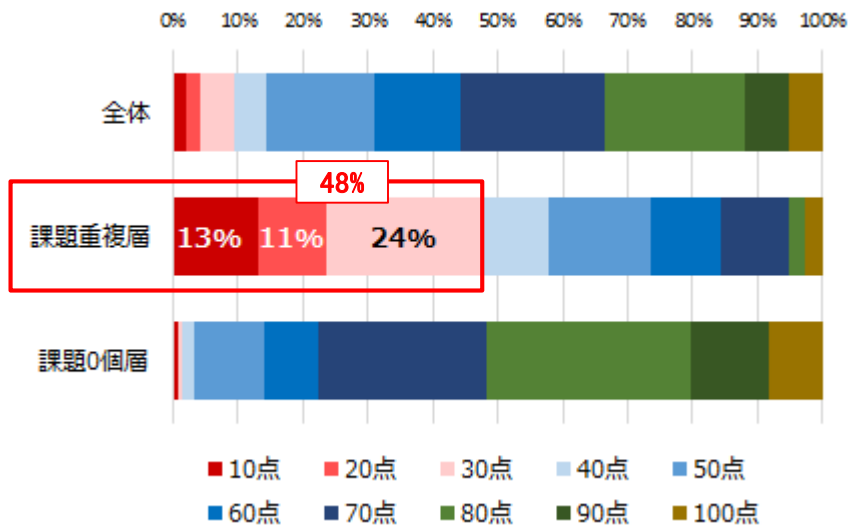
Q: お子さんと生計を共にしている世帯全員の方の、おおよその年間収入(税込)はいくらですか。(単回答)
(就学援助や児童扶養手当など、公的年金と社会保障給付金は除く)



3-4 課題重複世帯の特徴

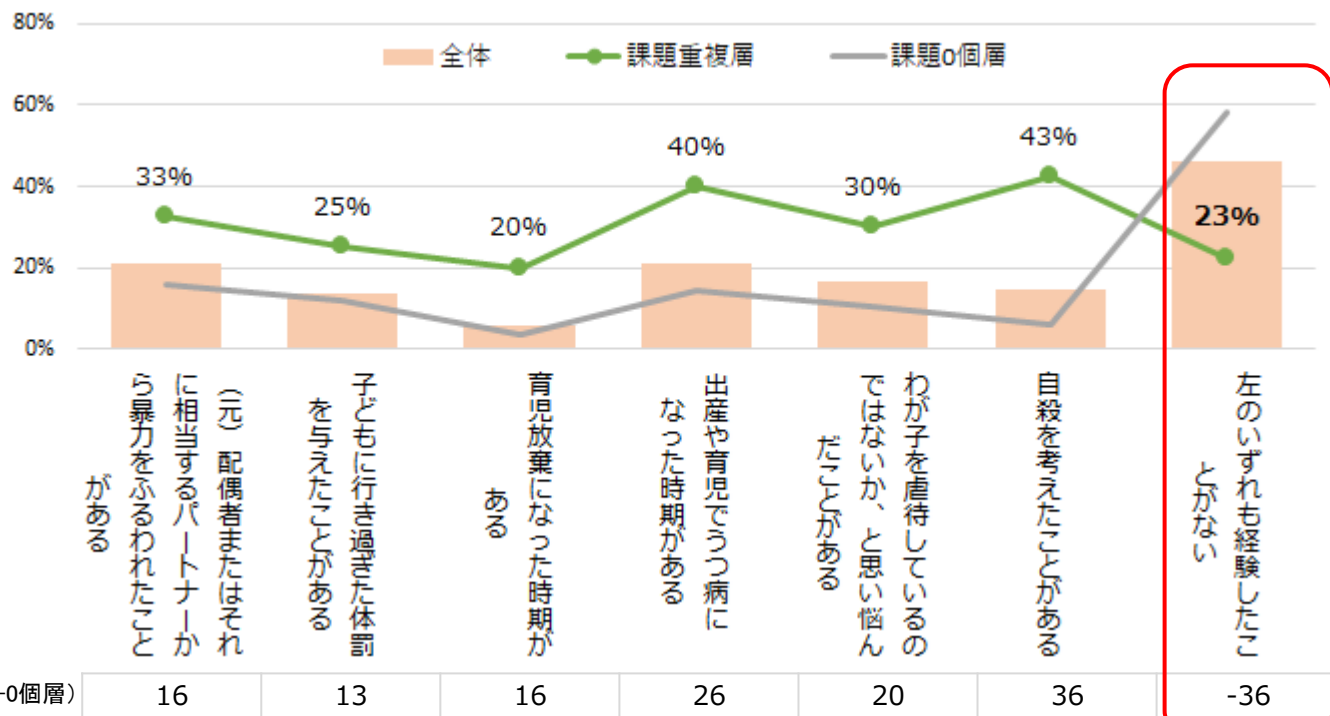
課題重複世帯の半数弱が生活満足度30点以下。
一方、課題0個世帯では70点～80点がボリュームゾーン。

Q: あなたの現在の生活に対する満足度について点数をつけると、100点満点で何点になりますか。



課題重複世帯の約8割(※)がいずれかのネガティブな経験をしている。

Q:あなたは、子育てにかかわってから以下のような経験をしたことがありますか。(「いずれも経験したことがない」を除き複数回答)



差分(重複層-0個層)

※ 半数 = 全体(100%)から「いずれも経験したことがない(23%)」を引いた値

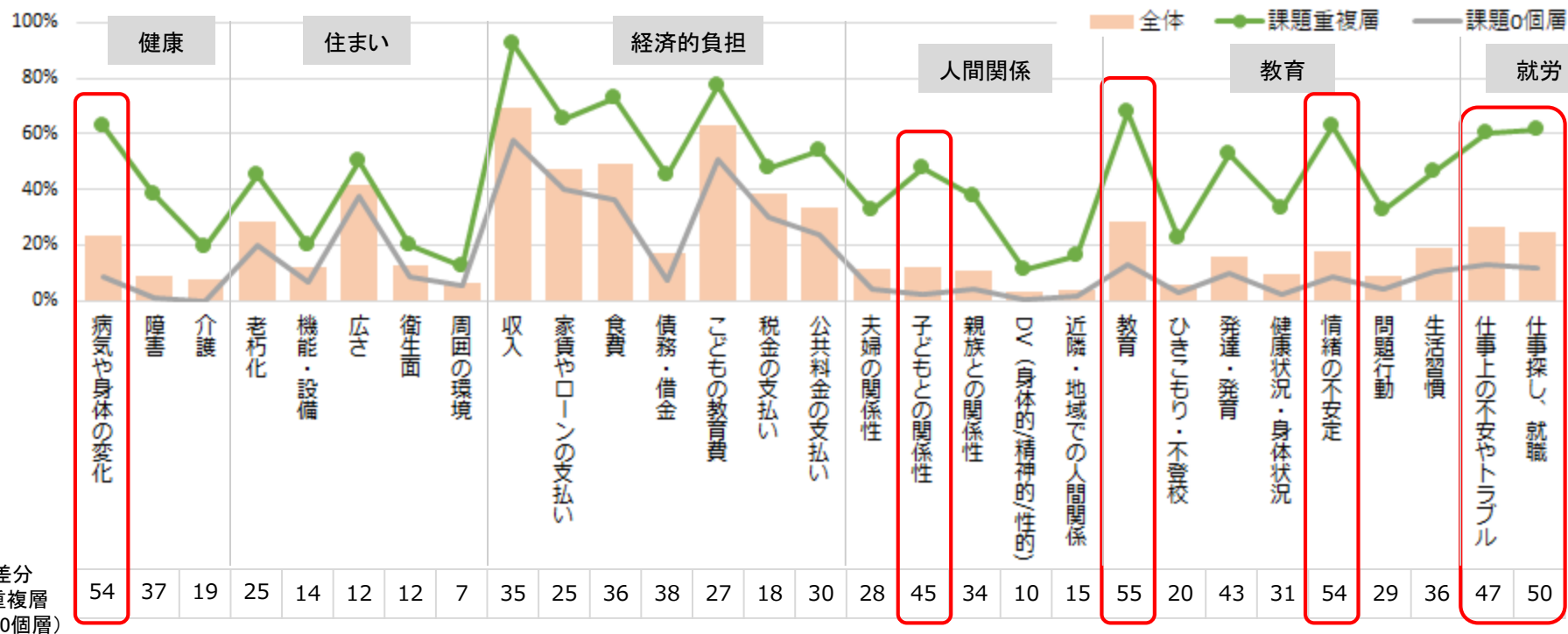
3-4 課題重複世帯の特徴

課題重複世帯は、0個世帯でも高い「経済的負担」カテゴリの他、「教育」「就労」のカテゴリや「病気や身体の変化」でも困り度が高く、0個世帯との差分も大きい。

(囲みは課題重複層と課題0個層の差分が45pt以上のもの)

Q:生活や子育ての中での困りごとについて、ご家庭の状況について当てはまるものをお選びください。(それぞれ単回答.5段階評価)

※「とても困っている」+「困っている」の値

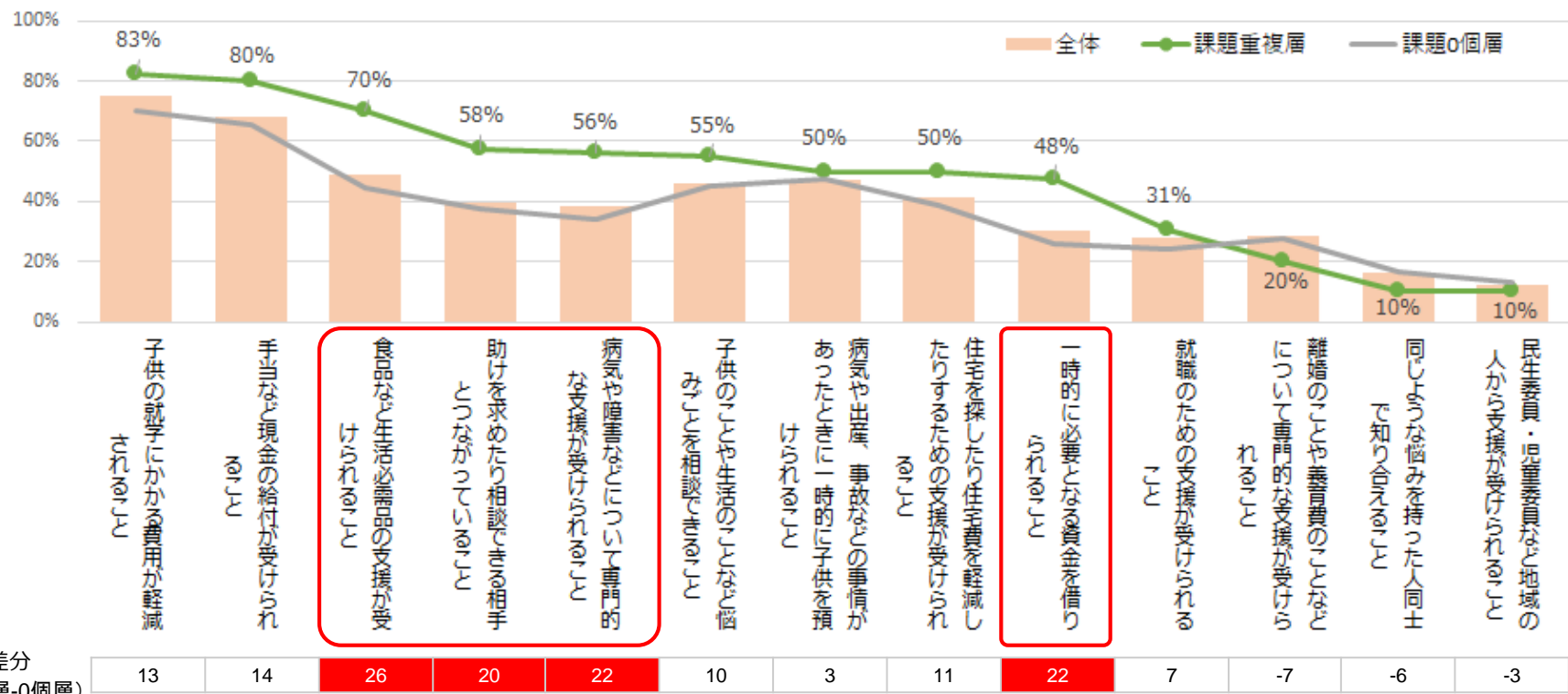


3-4 課題重複世帯の特徴

課題重複世帯は、「食材など生活必需品」に加え「助けを求めたり相談できる相手とのつながり」「専門的な支援」「一時的な資金の借り入れ」へのニーズが0個世帯と比べ高い。

Q: 以下の支援はどの程度重要だと思いますか。(それぞれ単回答_5段階評価)

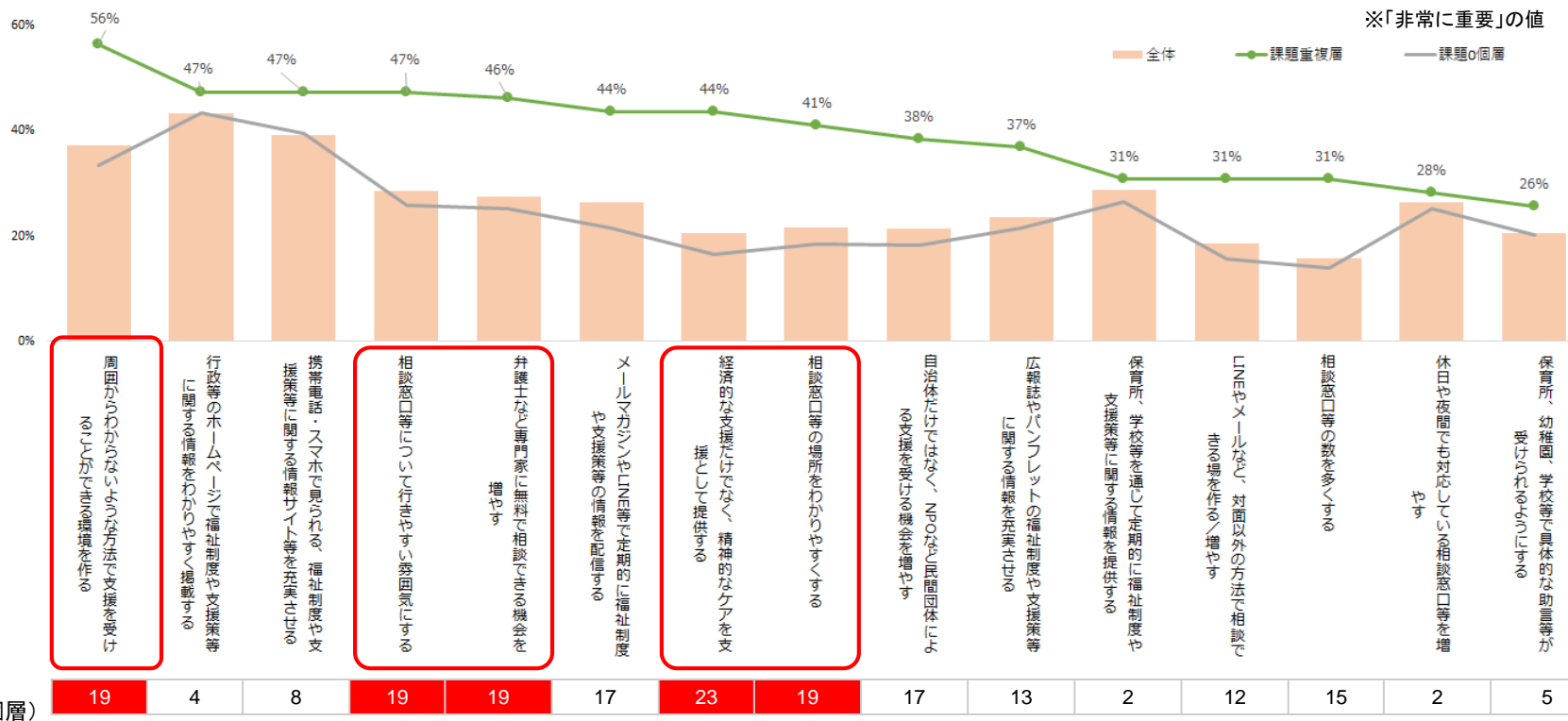
※「非常に重要」の値



3-4 課題重複世帯の特徴

課題重複世帯は「周囲からわからないような方法で支援を受けること」のニーズがトップ。
「精神的なケア」および個別相談に関わる項目のスコアも課題0個世帯より20ポイント程度高い。

Q: 必要な支援を受けられるようにするために重要だと思うことはなんですか。(それぞれ単回答_5段階評価)



差分
(重複層-0個層)